木更津工業高等専門学校	環境建設工学専攻	開講年度	平成31年度 (2019年度)

学科到達目標

社会的に深刻となっている環境や都市などの高度で広域化した問題に柔軟に対応できる思考力と創造力を身につけ、これらの問題に対応した研究開発ができること。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
環境建設工学専攻	専2年	共通	専門	ヒューマンインターフェース	2	栗本育三郎
環境建設工学専攻	専2年	共通	専門	技術論	2	栗本育三郎
環境建設工学専攻	専1年	共通	専門	コンピュータ科学	2	和崎浩幸
環境建設工学専攻	専1年	学科	専門	環境生物工学	2	上村繁樹
環境建設工学専攻	専1年	共通	専門	環境工学通論	2	上村繁樹
環境建設工学専攻	専1年	共通	専門	問題解決技法	1	栗本育三郎

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	英語総合	0009	学修単位	2	2								瀬川 直美	
一般	必修	人間と文化	0010	学修単位	2			2						加藤 達彦	
一般	選択	ドイツ語演習Ⅰ	0011	学修単位	1	1								柴田 育子	
一般	選択	ドイツ語演習Ⅱ	0012	学修単位	1			1						柴田 育子	
専門	必修	問題解決技法	0001	学修単位	1	1								伊藤 裕一,内田 洋彰,浅野 洋介,柏木 康秀,臼井 邦人,泉 源,栗本 育三郎,渡邊 孝一,島﨑 彦人,虻川 和紀	
専門	必修選択	応用数学特論	0002	学修単位	2			2						福室 康介	
専門	必修選択	応用物理特論	0003	学修単位	2	2								高谷 博史	
専門	必修選択	応用化学特論	0004	学修単位	2	2								佐合 智弘	
専門	必修選択	環境工学通論	0005	学修単位	2			2						上村 繁樹	
専門	必修選択	回路工学	0006	学修単位	2	2								浅野 洋介	
専門	必修選択	材料学通論	0007	学修単位	2			2						青葉 知弥	
専門	選択	インターンシップ	0008	学修単位	2	2								齋藤 康之	
専門	必修	技術英語Ⅰ	0013	学修単位	2			2						荒木 英彦	
専門	必修	材料力学通論	0014	学修単位	2	2								奥山 彫夢	
専門	必修	コンピュータ科学	0015	学修単位	2			2						丸山 真佐夫,和﨑 浩幸	

専門	必修	特別実験	0016	学修単位	2			2					石井 建樹	
専門	必修	特別演習Ⅰ	0017	学修単位	2	1		1					蛇川 和紀	
専門	選択	環境生物工学	0018	学修単位	2	2							上村 繁樹	
専門	選択	構造数値解析学	0019	学修単位	2			2					原田 健二	
専門	選択	応用構造工学	0020	学修単位	2	2							石井 建樹	
専門	選択	環境情報・保全工学	0021	学修単位	2			2					湯谷 賢太郎	
専門	必修	特別研究Ⅰ	0022	学修単位	6	3		3					青木 優介,石井 建樹,上村 繁樹,大久保 努,鬼塚 信弘,島﨑 彦人,湯谷 賢太郎,原田 健二,蛇川 和紀	
一般	必修	現代文明	0025	学修単位	2					2			武長 玄次郎	
一般	必修	技術倫理	0026	学修単位	2							2	小谷 俊博	
専門	必修	地震防災工学通論	0023	学修単位	2							2	鬼塚 信弘	
専門	必修選択	環境化学特論	0024	学修単位	2					2			佐久間 美紀	
専門	必修	技術英語Ⅱ	0027	学修単位	2					2			石出 忠輝	
専門	選択	応用材料工学	0028	学修単位	2							2	青木 優介	
専門	選択	応用地盤工学	0029	学修単位	2					2			鬼塚 信弘	
専門	必修選択	創造設計工学	0030	学修単位	2					2			関口 明生	
専門	必修選択	磁性材料工学	0031	学修単位	2					2			飯田 聡子	
専門	選択	技術論	0032	学修単位	1					1			栗本 育三郎,鈴木 聡,上村 繁樹	
専門	必修	特別研究Ⅱ	0033	学修単位	8					4		4	青木 優介,石井 建樹,上村 繁樹,大久保 努,鬼塚 信弘,島﨑 彦人,湯谷 賢太郎,原田 健二,蛇川 和紀	
専門	必修	特別演習Ⅱ	0034	学修単位	2					1		1	青木 優介,湯谷 賢太郎	
専門	選択	環境工学特論	0035	学修単位	2							2	大久保 努	

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語総合

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	・『Fundamenral Scienecr in English I 理工系学生のための基礎英語 I』 成美堂・『COCET2600 理工系学生のための必修英単語2600』 成美堂		
担当教員	瀬川 直美		

到達目標

・実用英検準2級以上合格またはTOEIC400点以上の英語力があることを前提に、実用英検２級以上合格またはTOEIC500点以上を獲得可能となる総合的な英語力を身につける。
・語彙集『COCET2600』により、理工系英語の基礎力を固める。定期的に小テストを実施する。
・英語で書かれた英文を理解し、それに基づいた自分自身の考えを文章でまとめるとともに、口頭でわかりやすく発表できることを目指す。
・ペアやグループでディスカッションを行う活動も取り入れ、英語によるコミュニケーション能力を養う。
・最終的にh、あ前期終了時には、グループでの議論を全体に発表し、英文読解に基づいた議論を行うことを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
英文読解に基づいた理解	英文を読解し、その内容をほとんど理解することができる。	英文を読解し、いくつかわからないところがあるものの、内容を理解することができる	英文を読むが、多くの部分の内容を理解できない
英文読解に基づいた課題や発表	英文読解に基づき、自分の考えをまとめ、深い議論を行うことができる	英文読解に基づき、自分の考えまとめ、発表をすることができる	英文読解に基づいた発表が不十分である

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本授業では、工学に限らない専門的な内容の英文を読解し、その理解に基づいた議論を行えるようをトレーニングする。授業形式は講義ではなく演習である。専攻科入学時の英語力を履修者が身に着けていることを前提とし、英文読解課題を提示し、履修者が各自事前に読解を行う。授業では英文読解の内容に基づき、ペアやグループで議論を行う。複数のペア、グループでの議論を通して、自らの疑問は考えを発すること身に着ける。ペア、グループでの議論を土台に、全体での議論に結び付けられる発表を行う。
授業の進め方・方法	本授業では、事前に指定する英文の読解を、授業前に行ってくることが前提となる。この前提なしには授業への参加は認められない。授業中には自ら積極的に疑問や考えを発し、履修者同士が議論・発表を行うことが求められる。
注意点	使用するテキストの英文を授業前に予習してこない場合、授業評価の「授業への参加」が認められない。授業中には、積極的に議論を行うことが求められ、積極的に発言する履修者は「授業中の態度」をすすんで評価を行う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	・ガイダンス ・基礎英語力診断テスト	・講義についての概要を理解する。 ・自分の現在の基礎英語力を知る。
		2週	・Lesson 1 Numbers and Calculations Part 1, 2 ・COCET2600: 2001-2050	加算・減算を正しく表現できる。How many～、How muchを正確につかうことができる。
		3週	・Lesson 1 Numbers and Calculations Part 3, 4 ・COCET2600: 2051-2100	・乗算・除算を英語で正しく表現できる。To不定詞の様々な用法を活用・運用することができる。 ・COCET2600を使って、語彙力を養成する。
		4週	・Lesson 2 Figures Part 1, 2 ・単語テスト: COCET2600 (2051-2100)	・ 様々な図形を英語で表現できる。関係代名詞の制限用法を活用することができる。 ・ so that S+Vを活用することができる。 ・語彙の定着を測定する。
		5週	・Lesson 2 Figures Part 3, 4 ・COCET2600: 2101-2150	・関係代名詞の非制限用法を活用することができる。 ・ not A but Bを活用することができる。 ・COCET2600を使って、語彙力を養成する。
		6週	・Lesson 2 Part 5 ・Leson 3 Part 1 ・COCET2600: 2151-2200	・ 結果を表すto不定詞を運用することができる。 ・COCET2600を使って、語彙力を養成する。
		7週	・Lesson 3 Part 2, 3 ・単語テスト: COCET2600 (2101-2200)	・前置詞＋関係代名詞、様々な比較表現を活用・運用することができる。 ・語彙の定着を測定する。
		8週	・Review Test ・Presentation (1)	・これまでに学習した内容の理解度を図る。 ・準備してきたプレゼンを英語で発表する。
	2ndQ	9週	・Lesson 4 Part 1, 2 ・COCET2600: 2251-2300	・ 関係副詞を正確に使うことができる。 ・ 受動態の文の書き方を確認する。 ・ COCET2600を使って、語彙力を養成する。
		10週	・Lesson 4 Part 3 ・Presentaion (2) ・単語テスト: COCET2600 (2201-2300)	・乗数と平方根を正確に表現できる。 ・語彙の定着を測定する。 ・準備してきたプレゼンを英語で発表する。
		11週	・Lesson 5 Part 1, 2 ・COCET2600: 2301-2350	・部分否定、不定代名詞のoneを正しく使うことができる。 ・ 関係副詞の非制限用法を活用できる。 ・COCET2600を使って、語彙力を養成する。
		12週	・Lesson 5 Part 3, 4 ・COCET2600: 2351-2400	・ 句動詞、動名詞、進行形の受動態を正しく書くことができる。 ・ COCET2600を使って、語彙力を養成する。
		13週	・Lesson 6 Part 1, 2 ・単語テスト: COCET2600 (2301-2400)	・ 現在完了形を活用できる。 ・ make+O+形容詞・名詞を運用できる。 ・ 語彙の定着を測定する。

		14週	・Lesson 6 Part 3, 4 ・Presentation (3)	・allow+O+to～を運用できる。 ・準備してきたプレゼンを英語で発表する。 ・COCET2600を使って語彙力を養成する。
		15週	Review Test	・これまでに学習した内容の理解度を図る。 ・語彙の定着を測定する。
		16週		

評価割合

	試験（単語テストも含む）	課題	積極的な授業への参加	発表	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
基礎的能力	60	20	10	10	100

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	人間と文化

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	なし（必要に応じて、随時プリントを配布する。）		
担当教員	加藤 達彦		

到達目標

1.異分野の人ともコミュニケーションをはかりながら、問題解決に向けた調査・発表を行うことができる。
2.調査・発表を通じて人々の生活や文化を多角的に捉え直し、自らの考えを深めてわかりやすく伝えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	課題テーマに基づき、人々の生活や文化を多角的に捉え直し、独自の観点で調査することができる。	課題テーマに基づき、人々の生活や文化を捉え直し、調査することができる。	課題テーマに基づき、人々の生活や文化を捉え直し、調査することができない。
評価項目2	調査や発表の内容を精緻にまとめ、他者に強く訴える文章を書くことができる。	調査や発表の内容を的確にまとめ、わかりやすく書くことができる。	調査や発表の内容を的確にまとめ、わかりやすく書くことができない。
評価項目3	異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行い、実践的な活動につなげることができる。	異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行うことができる。	異分野の人と協力しながら、問題解決に向けた発表を行うことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	調査やグループディスカッションを通じ、地域や社会が抱える諸問題について、解決に向けた具体的な提案をすることを目標とする。 そして可能であれば、実践的な活動にも挑戦したい。
授業の進め方・方法	①前半はプリント等を使って授業を行う。 ②授業のなかで課題を提示し、調査を踏まえ小レポートを書いてもらう。 ③小レポートをもとにグループごとに議論と調査を深めていく。 ④議論と調査に基づいて発表を行い、レポートにまとめる。 ※なお試験は実施せず、発表については相互評価を行う予定である。
注意点	①専攻分野のみに固執することなく、社会的な観点から様々なものの見方や考え方に興味・関心を持つことが大切である。 ②調査・発表では、伝え方を工夫し、独自の視点から新しい発見と具体的な提案を目指してほしい。 ③授業90分に対して180分以上の時間をかけてグループで調査や討議を重ね、プレゼン等の準備を行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業の進め方、レポートの取り組み方等を把握・理解する。
		2週	発想力を養う	様々なテクストの読解を通じて、発想法について理解する。
		3週	連想力を養う	ゲームを通じて連想の方法を理解する。
		4週	（1）文献探索	日本の未来に関する文献を探索し、その内容を理解する。
		5週	（2）文献探索	探索した文献の内容を適確に要約する。
		6週	（1）グループによる調査と議論	情報を整理し、ディスカッションの方法を学ぶ。
		7週	（2）グループによる調査と議論	情報を整理し、ディスカッションの方法を学ぶ。
		8週	（3）グループによる調査と議論	情報を整理し、ディスカッションの方法を学ぶ。
	4thQ	9週	（1）グループ発表	グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。
		10週	（2）グループ発表	グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。
		11週	（3）グループ発表	グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。
		12週	（4）グループ発表	グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。
		13週	（5）グループ発表	グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。
		14週	（6）グループ発表	グループによる発表と討論を行い、相互評価を通じて各テーマの基本情報を理解する。
		15週	総括	各グループの発表内容を振り返り、包括的な問題点を把握する。
		16週	レポート返却	レポート評価に関するポイントを確認する。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	40	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	40	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	ドイツ語演習Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	Schritte plus 3 Kursbuch + Arbeitsbuch (Hueber Verlag, 2010.)独和辞典		
担当教員	柴田 育子		

到達目標

ドイツ語の読解力の向上（独検2級、およびCEFR B1レベルの読解力の習得）
ドイツ語の聞き取りの力の向上（独検2級、およびCEFR B1レベルの聞き取り力の習得）
ドイツ語の筆記力の向上（独検2級、およびCEFR B12レベルの筆記力の習得）会話力の向上
ドイツ語会話力の向上（独検2級、およびCEFR B1レベルの会話力の習得）

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	あと一歩(可)	もっと努力(不可)
評価項目1	ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得している。（独検2級レベル）	ドイツ語の中級レベルの文法事項をほぼ習得している。（独検2級レベル）	ドイツ語の中級レベルの文法事項をだいたい習得している。（独検2級レベル）	ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得していない。（独検2級レベル）
評価項目2	ドイツ語発音の規則にしたがい、イントネーションに配慮してよどみなくドイツ語を読むことができる。	ドイツ語発音の規則から多少逸脱することもあるが、イントネーションに配慮してドイツ語を読むことができる。	ドイツ語発音の規則から多少逸脱することもあるが、内容理解を妨げないレベルでドイツ語を読むことができる。	ドイツ語発音の規則からの逸脱が著しく、発しているドイツ語を聞き手が理解できない。
評価項目3	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現ができる。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現がほぼできる。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現がだいたいできる。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現がほとんどできない。
評価項目4	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語を習得している。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語をほぼ習得している。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語をだいたい習得している。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語をほとんど習得していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	欧州言語共通参照枠A2+に対応したテキストSchritte plus 3を使い、ドイツ語の読解力、聴解力、筆記力、会話力の更なる向上を目指す。ドイツ語検定2級・欧州言語共通参照枠B1合格が可能となる総合的なドイツ語を身につける。本授業では、Kreatives Schreiben（クリエイティブライティング）、ドイツ語を「書く力」を向上させることに重点を置く。自らでテーマを決め、そのテーマについて600語程度の論理的な文章・ドイツ語記事を執筆できるようになる。本授業の最後には、受講者が自ら決めたテーマに沿ってドイツ語作文を提出する。
授業の進め方・方法	4名のグループを作り、演習形式で授業を進める。授業内で提示された課題を、1)個人、2)ペア、3)グループで解いていく。 ドイツ語の聴解力を高めるため、Deutsche Welleのtelenovla，Jojo sucht das Glück（1話5分程度）を毎回視聴する（ドイツ語Ⅲからの継続視聴）。 ドイツ語の会話力を高めるため、年4回の口頭試験を実施する。 ドイツ社会と文化をより良く理解するため、年間4回程度、ドイツ人講師を招いてProjektunterrichtを実施する。
注意点	ドイツ語Ⅱ・Ⅲからの継続受講を基本とする。ドイツ語Ⅱ・Ⅲで習得した中級レベルのドイツ語の文法事項、CEFR A2レベルの語彙力を習得しているこが必要である。 独検2級、およびGER:B1の学習内容レベルの授業を行う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	自己紹介や他者紹介。これまで学んできた、ドイツ語やドイツ語圏の文化のどこのようなことに興味を抱いているのかを、第三者にドイツ語で説明する。
		2週	Lektion 1　Ankommen Folge 1: Aller Anfang ist schwer.	Familie, Wohn- und Lebensformenに関する語彙を増やす（目標50語）。Wohn- und Lebensformenについて、ドイツ語で説明する。（ドイツ語会話力の向上）
		3週	Lektion 1　Ankommen Folge 1: Aller Anfang ist schwer.	接続詞weil, dennを用いて、文章を数多く作ることができる。sein, habenを使った現在完了形について復習する。
		4週	Lektion 1　Ankommen Folge 1: Aller Anfang ist schwer.	接続詞weil, dennを用いて、文章を数多く作ることができる。sein, habenを使った現在完了形について復習する。
		5週	Lektion 1　Ankommen Folge 1: Aller Anfang ist schwer.	理由を述べる表現について学ぶ。自分の意見を根拠づける表現がドイツ語でできるようになる。Genetivの表現について学ぶ。
		6週	Lektion 2　Zu Hause Folge 2: Was man hat, das hat man.	Wohnung, Miethausに関する語彙を増やす（目標50語）。Verben mit Wechselpräpositionについて学び、語彙を増やす（目標30語）。
		7週	Lektion 2　Zu Hause Folge 2: Was man hat, das hat man.	Miethausでの隣人との会話を、シミュレーションしてみる。Partnerarbeit;（ドイツ語会話力と発音の向上）
		8週	Lektion 2　Zu Hause Folge 2: Was man hat, das hat man.	Direktionanadverben: hierhin, dahin, dorthin, rein, raus, runter, ...を使った表現を覚える。(ドイツ語表現力の向上)
	2ndQ	9週	Lektion 2　Zu Hause Folge 2: Was man hat, das hat man.	Miethausでのさまざまなを読む。（ドイツ語読解力の向上）
		10週	Lektion 3　Essen und Trinken Folge 3: Eine Hand wäscht die andere.	Essen（食事）　と　Trinken（飲み物）に関する語彙を増やす（目標50語）。

		11週	Lektion 3　Essen und Trinken Folge 3: Eine Hand wäscht die andere.	疑問詞を使った表現のヴァリエーションを増やす。3･4格支配の前置詞について復習する。
		12週	Lektion 3　Essen und Trinken Folge 3: Eine Hand wäscht die andere.	レストランでの会話を、シミュレーションしてみる。Partnerarbeit;（ドイツ語会話力と発音の向上）
		13週	Lektion 3　Essen und Trinken Folge 3: Eine Hand wäscht die andere.	Ich essen nie Fleisch. のテキストを読み、ドイツのベジタリアンカルチャーについて理解する。またそれについての自分の見解をドイツ語で述べる。（ドイツ語読解力・表現力の向上）
		14週	Projektunterricht	ドイツ人講師を招いて、これまで学習してきた内容に関連するプロジェクト授業を行う。
		15週	Projektunterricht	ドイツ人講師を招いて、これまで学習してきた内容に関連するプロジェクト授業を行う。
		16週	期末試験	これまでに学習した内容の到達度を確認する。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	20	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	ドイツ語演習Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0012	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	1
教科書/教材	Schritte international 3 Kursbuch＋Arbeitsbuch(Hueber, 2006).　独和辞典		
担当教員	柴田 育子		

到達目標

ドイツ語の読解力の向上（独検2級、およびCEFR B1レベルの読解力の習得）
ドイツ語の聞き取りの力の向上（独検2級、およびCEFR B1レベルの聞き取り力の習得）
ドイツ語の筆記力の向上（独検2級、およびCEFR B12レベルの筆記力の習得）会話力の向上
ドイツ語会話力の向上（独検2級、およびCEFR B1レベルの会話力の習得）

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	あと一歩(可)	もっと努力(不可)
評価項目1	ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得している。（独検2級レベル）	ドイツ語の中級レベルの文法事項をほぼ習得している。（独検2級レベル）	ドイツ語の中級レベルの文法事項をだいたい習得している。（独検2級レベル）	ドイツ語の中級レベルの文法事項を習得していない。（独検2級レベル）
評価項目2	ドイツ語発音の規則にしたがい、イントネーションに配慮してよどみなくドイツ語を読むことができる。	ドイツ語発音の規則から多少逸脱することもあるが、イントネーションに配慮してドイツ語を読むことができる。	ドイツ語発音の規則から多少逸脱することもあるが、内容理解を妨げないレベルでドイツ語を読むことができる。	ドイツ語発音の規則からの逸脱が著しく、発しているドイツ語を聞き手が理解できない。
評価項目3	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現ができる。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現がほぼできる。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現がだいたいできる。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの会話表現がほとんどできない。
評価項目4	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語を習得している。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語をほぼ習得している。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語をだいたい習得している。	ドイツ語でGER:B1（中級）レベルの単語をほとんど習得していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	欧州言語共通参照枠A2+に対応したテキストdeutsch.com 2 を使い、ドイツ語の読解力、聴解力、筆記力、会話力の更なる向上を目指す。ドイツ語検定2級・欧州言語共通参照枠B1合格が可能となる総合的なドイツ語を身につける。本授業では、Generativ Schreiben（ジェネレイティブライティング）：ドイツ語演習Ⅰのクリエイティブライティングから更にレベルアップして、ジェネレイティブなドイツ語表現ができるようになる。自らでテーマを決め、そのテーマについて、高度なドイツ語で記事を執筆できるようになる。特に論理的な構成力を持った、書き言葉としてのドイツ語表現ができるようになる。本授業の最後には、受講者が自ら決めたテーマに沿って800語程度のドイツ語作文を提出する。
授業の進め方・方法	4名のグループを作り、演習形式で授業を進める。授業内で提示された課題を、1)個人、2)ペア、3)グループで解いていく。 ドイツ語の聴解力を高めるため、Deutsche Welleのtelenovla，Jojo sucht das Glück（1話5分程度）を毎回視聴する（ドイツ語Ⅲからの継続視聴）。 ドイツ語の会話力を高めるため、年4回の口頭試験を実施する。 ドイツ社会と文化をより良く理解するため、年間4回程度、ドイツ人講師を招いてProjektunterrichtを実施する。
注意点	ドイツ語Ⅱ・Ⅲからの継続受講を基本とする。ドイツ語Ⅱ・Ⅲで習得した中級レベルのドイツ語の文法事項、CEFR A2レベルの語彙力を習得していることが必要である。 独検2級、およびGER:B1の学習内容レベルの授業を行う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	Lektion 4　Arbeitswelt Folge 4: Glück muss der Menschen haben!	仕事・職業に関する語彙を増やす（目標50語）。ドイツ語の再帰表現について学ぶ。再帰表現を使って文章を作成することができる。
		2週	Lektion 4　Arbeitswelt Folge 4: Glück muss der Menschen haben!	接続詞wennを使った表現を学ぶ。Wennを使った文章を実際に作ってみる（目標10文）。
		3週	Lektion 4　Arbeitswelt Folge 4: Glück muss der Menschen haben!	定冠詞類・所有冠詞類の活用について理解し、実際に文章を作って表現することができる。（ドイツ語表現力の向上）
		4週	Lektion 4　Arbeitswelt Folge 4: Glück muss der Menschen haben!	Telefongespräche am Arbeitsplatz に関するリスニング問題を解く。その後、その場面での会話をシミュレーションしてみる。Partnerarbeit:（ドイツ語会話力の向上）
		5週	Lektion 5　Sport und Fitness Folge 5: Übung macht den Meiser!	Sport, Sportarten, Gesundheitに関する語彙を増やす（目標50語）。ドイツでの買い物の仕方について学ぶ(Landeskunde)。
		6週	Lektion 5　Sport und Fitness Folge 5: Übung macht den Meiser!	助動詞の過去形の活用の復習、dass, weil を使った副文の復習。ドイツ語の語順の特性について考える。
		7週	Lektion 5　Sport und Fitness Folge 5: Übung macht den Meiser!	動詞＋前置詞のFeste Verbindungenのストックを増やす（目標60語）。動詞＋前置詞を使って文章を作り、表現することができる。（ドイツ語表現力の向上）
		8週	Lektion 5　Sport und Fitness Folge 5: Übung macht den Meiser!	Sportverreinについての情報を入手し、登録する。Sportverreinに電話して登録する場面をシミレーションしてみる。Partnerarbeit:（ドイツ語会話力の向上）
	4thQ	9週	Lektion 6　Schule und Ausbildung Folge 6: Von nichts kommt nichts.	Schule und Ausbildungに関する語彙を増やす（目標50語）。ドイツの教育システムに関する文章を読み、その内容を理解する。（ドイツ語読解力の向上）
		10週	Lektion 6　Schule und Ausbildung Folge 6: Von nichts kommt nichts.	gefallen+3格を使った表現をマスターする。3格を使った文章表現についてのストックを増やす（目標20語）。3格を取る動詞について学ぶ。

		11週	Lektion 6　Schule und Ausbildung Folge 6: Von nichts kommt nichts.	比較級・最上級を使った表現について学ぶ。比較級・最上級を使って、実際に文章を作ってみる。（ドイツ語表現力の向上）
		12週	Lektion 6　Schule und Ausbildung Folge 6: Von nichts kommt nichts.	接続法Ⅱ式について学習する。接続法Ⅱ式を使った文章を実際に作ってみる（目標10文）。
		13週	Lektion 7　Feste und Geschenke Folge 7: Das kannst du laut sagen.	Feste（祝い事）やGeschenke（プレゼント）に関する語彙を増やす（目標50語）。ドイツの祝日や休暇について学び、日本との違いについてドイツ語の文章で表現できる。（ドイツ語筆記力の向上）
		14週	Lektion 7　Feste und Geschenke Folge 7: Das kannst du laut sagen.	ドイツのHochzeit（結婚式）についての文章を読み、日本との習慣の違いについて考え、ドイツ語の文章で表現できる。（ドイツ語筆記力の向上）
		15週	Lektion 7　Feste und Geschenke Folge 7: Das kannst du laut sagen.	ドイツ語の検定試験に合格し、友達がそのお祝いパーティを開催する場面について、会話をシミレーションしてみる。Partnerarbeit:（ドイツ語会話力の向上）
		16週	期末試験	これまでに学習した内容の到達度を確認する。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	20	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	問題解決技法

科目基礎情報

科目番号	0001	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習（クラス形式）	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材	教員作成資料		
担当教員	伊藤 裕一,内田 洋彰,浅野 洋介,柏木 康秀,臼井 邦人,泉 源,栗本 育三郎,渡邊 孝一,島﨑 彦人,虻川 和紀		

到達目標

・グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できる。
・ポスター等を使った効果的なプレゼンテーションができる。
・テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。チームの一員としての責任を自覚し、相互に協力しながら、問題解決にあたり、解決策を提案できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できる。	グループエンカウンター、KJ法を理解しある程度実施できる。	グループエンカウンター、KJ法を理解し実施できない。
評価項目2	効果的なプレゼンテーションができる。	効果的なプレゼンテーションがある程度できる。	効果的なプレゼンテーションができない。
評価項目3	テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。 チームのリーダとしての責任を自覚し、相互に協力しながら、問題解決にあたり、解決策を提案できる。	テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得する。 チームの一員としての責任を自覚し、相互に協力しながら、問題解決にあたり、解決策をある程度提案できる。	テーマ選定から問題解決技法の一連の流れを修得できない。 チームの一員としての責任を自覚せず、相互に協力せず、問題解決にあたらず、解決策を提案できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	具体的な地域の問題課題を専攻の枠を超えて、チームを作り企業の方々とのディスカッションにより、問題の本質を探り、具体的な解決策を提案する。この科目は企業でシステムの設計開発を担当していた教員が、その経験を活かし、システム開発の設計と実装と評価について、演習形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	ガイダンス、グループエンカウンター演習を実施し、自分と他者の特徴を掴み、KJ法などの問題解決分析手法、アイデア創出の手法を学んだ上で、問題解決のための具体的な演習を行う。最後に報告書をまとめ、発表する。
注意点	・構成的グループエンカウンター法、KJ法等のシステム思考法を学び、チームとしての問題解決演習を実施するため、特に異分野間を意識した、チーム構成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ドキュメント作成能力が必要となる。 ・演習では、様々な場面で出てくる諸問題を準学士課程で培った技術や知識を駆使して、積極的に解決するように心がけその時々の対処法を記録・整理することが重要である。 ・プロジェクト実習では、具体的な課題（条件）に対して、テーマ設定、計画の立案、その条件を克服する解決策の発見、実施、その考察と発表のための整理が重要である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス、「パーソナルカード作成」と「グループエンカウンター」	
		2週	「ＫＪ法入門」と「ブレーンストーミング」	「ＫＪ法入門」と「ブレーンストーミング」が理解できる。
		3週	ショックレー創造的思考パターンの「分析と試案作成」	ショックレー創造的思考パターンの「分析と試案作成」が理解できる。
		4週	問題解決課題提示「企業テーマ」	問題解決課題提示「企業テーマ」が理解できる。
		5週	アイデアの仮想工房「企業テーマの解決案」	アイデアの仮想工房「企業テーマの解決案」が提案できる。
		6週	アイデアの発表会：「企業テーマの解決案の発表」	基本的な解決策が提案できる。
		7週	プロジェクト実習(1)　各班ごと	プロジェクトの計画ができる。
		8週	「プロジェクトアドベンチャー」:身体活動を通したコミュニケーション、 信頼と協力，条件克服による問題解決	チームワークを強化できる。
	2ndQ	9週	プロジェクト実習(2)　各班ごと	計画に従い実施できる。
		10週	プロジェクト実習(3)　各班ごと	計画に従い実施できる。
		11週	プロジェクト実習(4)　各班ごと	計画に従い実施できる。
		12週	ロジェクト実習(5)　各班ごと	計画に従い実施できる。
		13週	プロジェクト実習(6)　各班ごと まとめと発表準備	まとめができる。パワーポイント等がまとめられる。
		14週	プロジェクト実習発表会(1)	効果的な発表、適切な質疑応答ができる。
		15週	プロジェクト実習発表会(2), アンケートほか	効果的な発表、適切な質疑応答ができる。
		16週	表彰式、講評	今後に向けての反省ができる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	90	0	0	10	0	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	0	10
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	60	0	0	10	0	70

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	応用数学特論

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	教科書：碓氷ほか著『はじめて学ぶベクトル空間』大日本図書、2016年、1600円(＋税)		
担当教員	福室 康介		

到達目標

線形空間、線形写像、固有空間、ジョルダン標準形に関する諸概念を標準的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	学習したベクトル空間の諸概念（ベクトル空間の定義、基底、次元）をすべて説明することができる。	学習したベクトル空間の諸概念（ベクトル空間の定義、基底、次元）をおおよそ説明することができる。	学習したベクトル空間の諸概念（ベクトル空間の定義、基底、次元）をほとんどまたは全て説明することができない。
評価項目2	行列や行列式の計算，連立１次方程式の解法への応用に関する応用的な問題を解くことができ、また連立１次方程式と階数の関係を説明できる。	行列や行列式の計算，連立１次方程式の解法への応用に関する基本的な問題を解くことができ、また連立１次方程式と階数の関係を説明できる。	行列や行列式の計算，連立１次方程式の解法への応用に関する基本的な問題を解くことができない。また連立１次方程式と階数の関係を説明できない。
評価項目3	固有値や固有ベクトル、に関する応用的な問題を解くことができ、さらに４次までのジョルダン標準形を求めることができる。	固有値や固有ベクトル、に関する基本的な問題を解くことができ、さらに小さいサイズのジョルダン標準形を求めることができる。	固有値や固有ベクトル、に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科２年生のときに学んだ代数幾何の内容をさらに抽象化した線形空間を学ぶ。具体的にはベクトル空間を土台として、基底、線形写像、階数などの諸概念や（一般）固有空間を通して、対角化やジョルダン標準形の意味とその計算方法を学ぶ。
授業の進め方・方法	最初に講義を行い、残り時間は演習を行う。
注意点	授業時間だけで理解することは難しいので、演習問題を積極的に解くことを推奨する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、行列	連立一次方程式と階数の関係や，行列式の性質を理解し，基本的な演算ができる。
		2週	ベクトル空間と線形独立	ベクトル空間、線形独立の基本的な問題を解くことができる。
		3週	基底	基底であるかどうかを判定することができる。
		4週	基底の変換	基底の変換行列の定義を理解し、基本的な問題を解くことができる。
		5週	内積とシュミットの直交化	内積の定義を理解し，シュミットの直交化で問題を解くことができる。
		6週	線形変換と線型写像	線形変換の定義を理解し、基本的な問題を解くことができる。
		7週	固有値と固有ベクトル	固有値と固有ベクトルを計算することができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	対角化の条件	対角化の条件を説明できる。
		10週	対称行列とその応用	対称行列の対角化を計算することができ、応用することができる。
		11週	部分空間	部分空間の定義を理解し、基本的な問題を解くことができる。
		12週	直交補空間	直交補空間の定義を理解し、基本的な問題を解くことができる。
		13週	ベクトル空間	ベクトル空間の定義を理解し、基本的な問題を解くことができる。
		14週	ベクトル空間の内積	一般のベクトル空間の内積を説明することができ、基本的な問題を解くことができる。
		15週	定期試験	
		16週	試験返却および解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	応用物理特論

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	参考図書：放射線概論　飯田博美編（閲覧希望者は担当教員まで申し出ること）		
担当教員	高谷 博史		

到達目標

・ 特殊相対性理論、前期量子論、原子、原子核の構造を理解し説明できる。
・ 放射性壊変、核反応について説明できる。
・ 荷電粒子、光子、中性子と物質との相互作用について理解し説明できる。
・ 様々な放射線検出器の原理を理解し、説明できる。
・ 計数値の統計について理解し、誤差も含めて測定値の評価ができる。
・ 放射線の人体に対する影響の外観を理解できる。
・ 放射線防護の基本について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	放射線物理学の基本的な部分を説明し、問題を解くことが出来る。	放射線物理学の基本的な部分を説明出来る。	放射線物理学の基本的な部分を説明出来ない。
評価項目2	放射線計測や測定器の基本的な部分を説明し、問題を解くことが出来る。	放射線計測や測定器の基本的な部分を説明出来る。	放射線計測や測定器の基本的な部分を説明出来ない。
評価項目3	放射線の人体に対する影響や放射線防護の基本的な部分を説明し、問題を解くことが出来る。	放射線の人体に対する影響や放射線防護の基本的な部分を説明出来る。	放射線の人体に対する影響や放射線防護の基本的な部分を説明出来ない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	放射線物理学を中心に、放射線についての基本的なことについて学ぶ。本講義の内容は、第2種放射線取扱主任者免許状を取得するための放射線取扱主任者試験の筆記試験に出題される、放射線物理学、管理測定分野に対応している。この分野における基本的な問題が解けるようになることを目標とする。
授業の進め方・方法	授業は、資料プリントを用いた講義形式が中心となるが、放射線測定のテーマでは実際に測定器を用いた実験も行う。各回では最後に基本的な演習問題を解く。
注意点	放射線は目に見えないが、常に現象をイメージすること。放射線取扱い主任者第2種試験の放射線物理および測定技術の内容に対応しているので、将来を見据え正しい放射線の知識を身に着けるように取り組み、わからないことは随時質問に来ること。 授業90分に対して補助教科書や配布プリントを活用して90分以上の予習・復習を行うこと.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	特殊相対性理論、前期量子論	粒子・光子の運動量・エネルギー　物質波　単位について理解し、基本的な問題が解ける。
		2週	原子、原子核の構造1	原子模型　励起と電離　結合エネルギーについて理解し、基本的な問題が解ける。
		3週	原子、原子核の構造2	原子模型　励起と電離　結合エネルギーについて理解し、基本的な問題が解ける。
		4週	放射性壊変、核反応1	α線　β線　γ線　エネルギー準位について理解し、基本的な問題が解ける。
		5週	放射性壊変、核反応2	反応断面積　放射性核種について理解し、基本的な問題が解ける。
		6週	放射性壊変、核反応3	放射化について理解し、基本的な問題が解ける。
		7週	放射線と物質の相互作用1	電子　重荷電粒子と物質の相互作用について理解し、基本的な問題が解ける。
		8週	放射線と物質の相互作用2	光子と物質の相互作用について理解し、基本的な問題が解ける。
	2ndQ	9週	放射線と物質の相互作用3	光子・中性子と物質の相互作用について理解し、基本的な問題が解ける。
		10週	放射線検出器1	気体の検出器について理解し、基本的な問題が解ける。
		11週	放射線検出器2	固体の検出器について理解し、基本的な問題が解ける。
		12週	放射線計測、計数値の統計	放射線計測の仕組みを理解し、基本的な計数値の統計処理ができる。
		13週	放射線生物学1	放射線の人体に対する影響の外観について理解し、基本的な問題が解ける。
		14週	放射線生物学2	放射線の人体に対する影響の外観について理解し、基本的な問題が解ける。
		15週	放射線防護	放射線防護の基本について理解し、基本的な問題が解ける。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	応用化学特論

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	必要に応じて資料を配付		
担当教員	佐合 智弘		

到達目標

身の回りの物質は全て原子や分子でできており、それらの物質の特性を生かすことで、人間生活が豊かになっている。このような物質の特性がなぜ生まれるのか、また特性をどのように評価するのかについて関心を高め、「化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うこと」を目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	身の回りの物質や代表的な化学反応について、科学的概念や化学の法則などを用いて説明できる。	身の回りの物質や代表的な化学反応について、概念や用語の誘導をされると説明できる。	身の回りの物質や代表的な化学反応について、説明できない。
評価項目2	身の回りの現象について、原子や分子の構造や運動などと関連させて説明できる。	身の回りの現象について、概念や用語を誘導されると説明できる。	身の回りの現象について、説明できない。
評価項目3	各種分析手法の原理について、詳細に説明できる。	各種分析手法の原理について、概要が説明できる。	各種分析手法の原理について、説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	パワーポイントを用いて講義を行う。
授業の進め方・方法	分子の構造を学んだ上で、有機化合物を中心に化学物質を分析する測定の原理などを説明する。小テストについては、出席確認を兼ねて毎時間行う。
注意点	授業時間内で取り扱う内容に対して、より深い理解が望まれる。授業90分に対して90分以上の予習・復習を行うこと。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート等を課すことがあります。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	原子の構造（1）	原子を構成する粒子について説明できる。
		3週	原子の構造（2）	電子軌道について理解できる。
		4週	電磁波（1）	色づいて見える原理を理解できる。
		5週	電磁波（2）	紫外可視分光測定について理解できる。
		6週	電磁波（3）	赤外線吸収測定について理解できる。 地球温暖化について理解できる。
		7週	まとめ（1）	
		8週	熱（1）	温度と分子運動について理解できる。
	2ndQ	9週	熱（2）	熱測定について理解できる。
		10週	微小な構造（1）	電子顕微鏡について理解できる。
		11週	微小な構造（2）	X線回折について理解できる。
		12週	まとめ（2）	
		13週	化学に関する予備知識	ヒヤリハットについて考えられる。
		14週	全体のまとめ	
		15週	定期試験	
		16週	試験返却	

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20	0	0	0	30	100
基礎的能力	50	20	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境工学通論

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	使用せず		
担当教員	上村 繁樹		

到達目標

・地球環境問題の現状の概略を説明できる
・地球環境問題の解決に向けての技術者としての役割を考察できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地球環境問題の現状の概略を説明できる	地球環境問題の現状の概略をある程度説明できる	理解していない
評価項目2	地球環境問題の解決に向けての技術者としての役割を考察できる	地球環境問題の解決に向けての技術者としての役割をある程度考察できる	理解していない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地球環境問題についての理解を深め、各専門分野における技術者として、その問題解決に取り組めるようになる。本科目は、企業で環境市場調査の業務を担当していた教員が，その経験を活かし，環境問題について講義形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	パワーポイントによる講義方式
注意点	この講議では経済学や社会学の知識を要するので、それらの科目をよく復習することが肝要である。また新聞やニュースを通じて現在の環境問題に関する情報を収集しておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	地球環境問題の概要 1	地球温暖化の概要を理解する
		2週	地球環境問題の概要 2	地球温暖化の概要を理解する
		3週	地球環境問題の概要 3	地球温暖化の概要を理解する
		4週	地球環境問題の概要 4	地球温暖化の概要を理解する
		5週	地球環境問題の概要 5	オゾン層の破壊を理解する
		6週	地球環境問題の概要 6	オゾン層の破壊を理解する
		7週	地球環境問題の概要 7	酸性雨について理解する
		8週	地球環境問題の概要 8	酸性雨について理解する
	4thQ	9週	地球環境問題の概要 9	熱帯雨林の減少について理解する
		10週	地球環境問題の概要10	熱帯雨林の減少について理解する
		11週	地球環境問題の概要11	砂漠化について理解する
		12週	地球環境問題の概要12	野生生物種の減少について理解する
		13週	地球環境問題の概要13	野生生物種の減少について理解する
		14週	地球環境問題の概要14	海洋汚染について理解する
		15週	地球環境問題の概要15	人口問題について理解する
		16週	地球環境問題の概要16	開発途上国の公害問題について理解する

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	40	0	40
専門的能力	0	0	0	0	20	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	40	0	40

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	回路工学

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	使用せず		
担当教員	浅野 洋介		

到達目標

１．回路素子の特徴が説明でき，簡単な回路の計算ができる。
２．増幅回路の動作が説明でき，基本的な増幅回路の計算ができる。
３．演算増幅器の概要が説明でき，基本回路の設計や簡単な応用回路の計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	回路素子の特徴が説明でき，簡単な回路の計算ができる。	回路素子の概要が説明でき，簡単な回路の計算ができる。	回路素子の特徴が説明できない。
評価項目2	演算増幅器の概要が説明でき，基本回路の設計や簡単な応用回路の計算ができる。	演算増幅器の概要が説明でき，基本回路の設計ができる。	演算増幅器を用いた基本回路の設計ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	3専攻共通科目である。 電子回路に代表される回路技術は，全ての工学分野において，計測などを中心に欠かせない基本技術として重要な位置にある。 ここでは，回路素子，回路解析，増幅回路の基本から，演算増幅器の基礎と応用について学習する。
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし、随時演習を取り入れる。 事後(または事前)学習としてレポートを課す。
注意点	１．回路特有の考え方に慣れるために，関連した雑誌等を通読することが有効である。 ２．問題を解くためにも，簡単な関数電卓の準備が必要である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス 電子回路の概念	電気回路と電子回路の違いを説明できる
		2週	回路素子(1)	抵抗の概要と実際を説明できる
		3週	回路素子(2)	コンデンサとコイルの概要と実際を説明できる
		4週	回路解析(1)	回路解析の基礎を学習し，回路の計算ができる(1)
		5週	回路解析(2)	回路解析の基礎を学習し，回路の計算ができる(2)
		6週	増幅回路の基礎	増幅の概念と増幅回路の動作量を説明できる
		7週	演算増幅器(1)	理想的な演算増幅器と実際の演算増幅器の違いが説明できる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	演算増幅器(2)	逆相増幅回路と正相増幅回路の動作が説明できる。
		10週	演算増幅器(3)	簡単な増幅回路が設計できる。
		11週	演算増幅器(4)	演算増幅器を用いた応用回路の動作や特徴を説明できる
		12週	電源回路(1)	電源回路の原理と基本構成を説明できる
		13週	電源回路(2)	リニア電源とスイッチング電源の動作原理を説明できる
		14週	回路シミュレーション(1)	Pspice等の回路シミュレータの概要を説明できる
		15週	回路シミュレーション(2)	回路シミュレータの簡単な使い方を説明できる
		16週	定期試験	

評価割合

	試験	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	材料学通論

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	黒田大介編著「機械・金属材料学」実教出版　¥3,132(税8%込)		
担当教員	青葉 知弥		

到達目標

固体の構造、格子欠陥、拡散など材料学の基礎事項を簡単に説明できる。鉄およびアルミの製造法概要を説明できる。
簡単な模式的平衡状態図を読むことができる。転位の定義およびはたらきを簡単に説明できる。また材料の強化機構を簡単に説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
固体の構造、格子欠陥、拡散、鉄・アルミ製造法、転位の定義・はたらき、強化機構	相互の関係まで説明できる。	それぞれを簡単に説明できる。	定義を説明できない。
平衡状態図の読み方、Fe-C系平衡状態図	材料の製造工程や部品の使用環境において、材料のとる相を状態図から予測することができる。	指示された組成および温度における平衡相およびそれが混合相の場合はそれぞれの相の溶質濃度および体積分率を答えることができる。	全率固溶体型状態図、共晶（共析）型状態図、包晶（包析）型状態図を正しく読むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	機械を設計するには、部品に適した材料を選択できなければならない。また、機械をメンテナンスするには、部品に使われている材料が使用環境から受ける影響や経時変化を知っていなければならない。これらに必要な材料学の基礎的な知識を学ぶ。予備知識として高校の化学、物理および関数の知識が必要である。材料学については何も知らないという前提で進める。
授業の進め方・方法	【方法】講義、演習を組み合わせる。講義中も積極的に指名して質問を投げかける。 【内容】 固体の構造、格子欠陥、拡散など材料学の基礎事項を概観する。 材料の地図とも言える平衡状態図の読み方を学び、平衡状態図をもとに鉄鋼材料の熱処理を理解する。 20世紀における金属学の最大の成果とも言える転位について概観した後、転位の理解をもとに材料の強度とは何か、強度を高めるにはどうすればよいかを学ぶ。
注意点	いくつかの概念が相互に説明しあっていることも少なくないので、1回の授業で説明されたことがその授業中に必ずしもすべて理解できなくても気にしなくてよい。そのかわり、理解できない事項があってもめげずに、とりあえずそこを保留にしたまま先へ進むことと、復習を十分行うこととが大切である。ジグソーパズルの欠けていた部分にあてはまるピースがずっと後で見つかるように、最後には「ああ、そういうことだったのか」と全体が理解できるようになるはずである。 授業90分に対して教科書・参考図書・配布物を活用して180分以上の予習・復習を行うこと

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	
		2週	金属材料の性質	金属材料の性質を簡単に説明できる。
		3週	結晶構造	結晶構造を簡単に説明できる。
		4週	格子欠陥	格子欠陥を簡単に説明できる。
		5週	金属の塑性変形	金属の塑性変形の機構と、すべり系について説明できる。
		6週	金属の強化機構	金属の強化機構について簡単に説明できる。
		7週	相変態と平衡状態図	相変態の概念を簡単に説明できる。全率固溶体型・共析型・包析型状態図を読める。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	中間試験の返却と解説	
		10週	Fe-C系状態図と熱処理	Fe-C系状態図におけるフェライト、オーステナイト、セメンタイト、パーライトを簡単に説明できる。
		11週	鉄鋼材料の製法	鉄鋼材料の製法について簡単に説明できる。
		12週	炭素鋼の熱処理１	炭素鋼を熱処理によって起こる現象について簡単に説明できる。
		13週	炭素鋼の熱処理２	TTT線図とCCT線図について簡単に説明できる。
		14週	金属の凝固過程	金属の凝固過程について簡単に説明できる。
		15週	定期試験	
		16週	定期試験の返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	0	0	0	0	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	インターンシップ

科目基礎情報

科目番号	0008	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	齋藤 康之		

到達目標

就業経験をとうして、仕事の進め方、人とのコミュニケーションを身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	就業体験をとおして、自らの能力を高めることができる。	就業体験をとおして、自らの能力を高めることがある程度できる。	就業体験をとおして、自らの能力を高めることができない
評価項目2	仕事の進め方を理解することができる。	仕事の進め方を理解することがある程度できる。	仕事の進め方を理解することができない。
評価項目3	人ととのコミュニケーション力を身につけることができる。	人ととのコミュニケーション力を身につけることがある程度できる。	、人ととのコミュニケーション力を身につけることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	企業、大学等のインターンシップに応募し、体験する。
授業の進め方・方法	数週間の現場体験をとおして、具体的な課題に取り組むことにより、実地の課題を解決しながら、報告書等まとめる。 最後に、プレゼンテーションを実施する。
注意点	企業や大学の組織の中に入るので、情報漏洩など細心の注意を払うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	企業・大学等での実習	実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。
		2週	企業・大学等での実習	実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。
		3週	企業・大学等での実習	実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。
		4週	企業・大学等での実習	実習を理解し、実習を行い、報告書を作成できる。
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	80	0	0	30	0	110
基礎的能力	0	10	0	0	10	0	20
専門的能力	0	10	0	0	10	0	20
分野横断的能力	0	60	0	0	10	0	70

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	技術英語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0013	科目区分	専門 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	プリント使用		
担当教員	荒木 英彦		

到達目標

・科学技術に関する英文で典型的に用いられる基本表現を理解し、活用できるようになる。
・科学技術に関する英文でよく用いられる、数字・数量･単位に関する表現を理解し、活用できるようになる。
・科学技術に関する英文でよく用いられる句読法を身につける。
・科学技術に関する英文の内容を理解するためのリーディング能力を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	Technical term の語彙力が工業英語2級程度	Technical term の語彙力が工業英語3級程度	Technical term の語彙力が工業英語3級程度以下
評価項目2	技術的知識に基づく技術英語文献の和訳ができる	技術的知識に基づく技術英語文献の和訳が大体できる	技術的知識に基づく技術英語文献の和訳ができない
評価項目3	工業英語2級程度の問題が解ける	工業英語3級程度の問題が解ける	工業英語3級程度の問題が解けない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・準学士課程で学習した英文法、英単語・熟語を復習し、身につけておくことが肝要である。 ・授業中の課題をきちんとこなすことで実力がつく。 ・工業英検2級に合格できる能力を身につけることを目標とする。
授業の進め方・方法	・原則として、プリントを使用して行う。 ・練習問題により英作文のテクニックを向上させる。 ・練習問題により英文の句読法を身につける。 ・練習問題により英文要約のテクニックを向上させる。
注意点	前期・後期とも、中間試験および定期試験を実施し、試験成績(2回の試験の平均点)を80%、課題の成績を20%として評価する。 不明な点は随時質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	授業の目標と学習方法のガイダンス	授業の目標と学習方法について理解する。
		2週	・基本英作文法(1)	文型、品詞について理解する
		3週	・基本英作文法(2)	動詞グループについて理解する
		4週	基本英作文法(3)	形容詞グループについて理解する
		5週	基本英作文法(4)	副詞グループについて理解する
		6週	技術英語の特徴	技術英文の特徴を理解する
		7週	応用英作文法(1)	簡潔な文にする方法について理解する
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	中間テスト返却	中間テストの範囲の学習事項において理解が不十分なところの確認
		10週	英文句読法(1)	ピリオド、コンマ、コロンについて理解する
		11週	英文句読法(2)	ハイフン、ダッシュ、括弧について理解する
		12週	英文句読法(3)	略語、イタリック体について理解する
		13週	英文句読法(4)	語の分割について理解する
		14週	応用英作文法(1)	文の連結方法について理解する
		15週	要約練習	要約の仕方について理解する
		16週	定期試験	

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	材料力学通論

科目基礎情報

科目番号	0014	科目区分	専門 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜プリントを配布		
担当教員	奥山 彫夢		

到達目標

１）応力の概念を説明でき、主応力を求めることができる。
２）応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることを説明できる。
３）公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ（対数ひずみ）の違いを応力ーひずみ曲線から説明できる。
４）たわみの基礎式よりはりのたわみを計算できる。
５）外力によってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーの関係を説明できる。
６）カスティリアノの定理により変位、たわみ角、ねじれ角を求めることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	応力の概念を説明でき、主応力を求めることができる。	応力の概念と主応力を説明できる。	応力の概念と主応力を説明できない。
評価項目2	応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることを説明し、それらを計算できる。	応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることを説明し、それらを計算できる。	応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることを説明できない。
評価項目3	公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ（対数ひずみ）の違いを応力ーひずみ曲線から説明できる。	公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ（対数ひずみ）の違いを説明できる。	公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ（対数ひずみ）の違いを説明できない。
評価項目4	静定はりのたわみを求めることができ、不静定はりの基本的問題を解くことができる。	たわみの基礎式を説明でき、それを用いて静定はりのたわみを求めることができる。	静定はりのはりのたわみを求めることができない。
評価項目5	引張・圧縮、曲げによってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーを計算できる。	引張・圧縮、曲げによってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーの関係を説明できる。	引張・圧縮、曲げによってなされる仕事と部材に蓄えられるひずみエネルギーの関係を説明できない。
評価項目6	カスチリアノの定理を理解し、不静定はりの問題などに応用できる。	カスチリアノの定理を理解し、基本的な問題を解くことができる。	カスチリアノの定理による基礎的な問題を解くことができるない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本科で学んだ応力の数学的扱い理解し、２次元の主応力を求め、その物理的意味をできることこと、およびエネルギ法の一つであるカスチリアノの定理を理解し、不静定はりの問題などに応用できることを目指す。
授業の進め方・方法	適宜配布するプリントに従って講義を進める。
注意点	授業時間以上の自学自習を行うことを忘れないように。不明な点などあれば随時質問に訪れること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	質点から連続体へ	２質点の相互作用から物質の微視的構造を無視できるレベルの連続体の概念が説明できる。
		2週	応力の概念	応力（内力）が仮想的な断面を通して、物体のある部分と他の部分んお相互作用であることを説明できる。
		3週	応力の表記	応力はベクトルであること、物体内の任意の点の応力状態は９個の応力成分で表記できることを説明できる。
		4週	垂直応力とせん断応力	応力成分が垂直応力とせん断応力に分けられることを説明できる。
		5週	応力ーひずみ曲線	公称ひずみと公称応力、公称ひずみと真ひずみ（対数ひずみ）の違いを応力ーひずみ曲線から説明できる。
		6週	許容応力と安全率	材料の基本的特性である応力ーひずみ線図および構造物設計に重要な許容応力と安全率を説明できる。
		7週	引張とせん断	張とせん断荷重を受ける部材に生じる応力を求めることができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答解説	試験結果を踏まえ、知識・理解不足項目を復習し解消する。
		10週	たわみの基礎式	たわみの基礎式の導出を理解することができる。
		11週	はりのたわみ角とたわみ	たわみの基礎式を用いて、たわみ角とたわみを求めることができる。
		12週	弾性ひずみエネルギ	引張（圧縮）、曲げを受ける部材に蓄えられる弾性ひずみエネルギを求めることができる。
		13週	マックスウェルの相反定理とカスティリアノの定理	マックスウェルの相反定理を説明でき、スティリアノの定理により変位、たわみ角を求めることができる。
		14週	二次元応力状態	二次元応力状態の物体の最大応力と主応力の大きさと作用面を求めることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答解説	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	0	0	0	10	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	コンピュータ科学

科目基礎情報

科目番号	0015	科目区分	専門 / 必修
授業形態	講義（オムニバス形式）	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	稲垣耕作著『理工系のコンピュータ基礎学』コロナ社、2006年、2520円(税込)		
担当教員	丸山 真佐夫,和﨑 浩幸		

到達目標

コンピュータのソフトウェアとハードウェア、情報通信の原理、構成等を幅広く理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
コンピュータハードウェアの構成	コンピュータのハードウェアの構成について詳細に説明ができる。	コンピュータのハードウェアの概要を理解し、基本的な構成について説明ができる。	コンピュータの基本的な構成について説明ができない。
コンピュータソフトウェアの構成	コンピュータのソフトウェアのの構成について詳細に説明ができる。	コンピュータのソフトウェアの概要について理解し、その基本的な構成について説明ができる。	コンピュータのソフトウェアの基本的な構成について説明ができない。
オペレーティングシステムの機能と構成	コンピュータシステムの処理形態やオペレーティングシステムの機能について詳細に説明できる。	コンピュータシステムの処理形態やオペレーティングシステムの機能について理解し、その基本的な仕組みなどについて説明できる。	コンピュータシステムの処理形態やオペレーティングシステムの基本的な仕組みなどについて説明できない。
情報通信の基本的な仕組み	情報通信の概要を理解し、その基本的な仕組みについて詳細に説明できる。	情報通信の概要を理解し、その基本的な仕組みについて説明できる。	情報通信の概要を理解できない、またはその基本的な仕組みについて説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この科目は企業で計算機のシステム設計開発を担当していた教員が、その経験を活かし、コンピュータの基礎技術について、講義形式で授業を行うものである。 講義を通じて、コンピュータのソフトウェアとハードウェア、情報通信について歴史、原理、構成等を学習する。
授業の進め方・方法	一つのトピックについて１～２回程度の講義を実施する。講義の中では、随時小演習を行う。【オムニバス】
注意点	コンピュータの情報処理について広く解説を行うので、部分的な問題にとらわれすぎずにシステム全体としての構成や振る舞いについて、繋がりをもって理解するように心がけること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	コンピュータ処理の開発の歴史(1) （丸山　真佐夫1）	コンピュータ開発に至る歴史、コンピュータの世代、性能向上の過程について説明できる。
		2週	CPU・計算機システムの構成、命令セットと機械語(1) （丸山　真佐夫2）	プログラム内蔵方式コンピュータの基本構成と動作原理を説明できる。
		3週	CPU・計算機システムの構成、命令セットと機械語(2) （丸山　真佐夫3）	命令セットアーキテクチャの意味、RISCとCISCの違いについて説明できる。
		4週	情報量と2進数による数表現 （和﨑　浩幸1）	情報量の定義を説明でき、固定小数点・浮動小数点の表現が理解できる。
		5週	ブール代数と基本論理演算、論理回路 （和﨑　浩幸2）	ブール代数による論理積・論理和・論理否定の混じった簡単な計算ができる。論理回路を実現するための回路動作の基本が理解できる。
		6週	組み合わせ回路の設計、順序回路と状態モデル （和﨑　浩幸3）	真理値表から論理式を求めることができる。また、順序回路について状態遷移図で状態を表すことが理解できる。
		7週	ハードウェアシステムの構成と概要 （和﨑　浩幸4）	コンピュータシステムを構成するハードウェアの概要について、説明できる。チューリングマシンの概要について説明できる。
		8週	中間試験を実施する。	
	4thQ	9週	オペレーティングシステムの概要、情報処理の形態 （和﨑　浩幸5）	オペレーティングシステムの基本的な役割について、説明できる。代表的な処理形態について、説明できる。
		10週	通信プロトコル、コンピュータネットワークの構成 （和﨑　浩幸6）	ネットワークの形状や規模について理解し、インターネットの概要を説明できる。ネットワークプロトコルの階層構造が理解できる。
		11週	アルゴリズムと計算量 （丸山　真佐夫4）	代表的なソートアルゴリズムの手順と計算量を説明できる。O記法の意味を説明できる。
		12週	高級言語とプログラムの構成 （丸山　真佐夫5）	プログラミング言語の歴史、プログラミングモデルと各モデルの代表的な言語を説明できる。
		13週	コンパイラの仕組み(1) （丸山　真佐夫6）	典型的なコンパイラの構成を説明できる。
		14週	コンパイラの仕組み(2) （丸山　真佐夫7）	演算子順位文法による式の解析手順を理解し実行できる。
		15週	期末試験を実施する。	
		16週	必要に応じて補講を行う。	

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100

基礎的能力	90	90
応用的能力	10	10

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別実験

科目基礎情報

科目番号	0016	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	指定しない		
担当教員	石井 建樹		

到達目標

実験課題を通じて、計画立案、実践技術を身に付けるとともに、データ解析・検討・考察により、報告書の作成能力を高めること。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
実践的な技術の調査	課題達成に必要な情報を自ら収集することができる.	課題達成に必要な情報をこれまでに学んだ知識から見出すことができる.	必要な情報を収集できない.
問題解決	調査した情報に基づいて，問題解決へ向けた対応ができる.	調査した情報を模倣して，問題解決へ向けた対応ができる.	問題解決できない.
結果分析	実験結果に対して，独自の着眼点と理論的根拠に基づいた分析ができる.	実験結果に対して，定型どおりのデータ整理ができる.	実験結果に対して，データ整理ができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	環境建設工学に関する問題解決型の実験課題を通じて、計画立案，実践技術を身に付けるとともに、データ解析・検討・考察により、報告書の作成能力を養うこと。
授業の進め方・方法	実験実習科目であるが、これまでに学習したすべての科目を復習するとともに、次の作業に向けた準備や スケジュール管理などを行いながら、自ら進んで予習・復習を行うこと。
注意点	実験テーマと関係する専門科目や数学、物理学の専門基礎科目も含めて、実験に対してしっかりと 準備して、計画、設計、施工を順序立てて行い、評価試験に備えること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	課題説明	
		2週	製作の計画	設計・製作に向けた実施計画を立てる
		3週	製作の計画	設計・製作に向けた実施計画を立てる
		4週	製作の計画	設計・製作に向けた実施計画を立てる
		5週	設計計算書の作成	設計計算書を作成する
		6週	設計計算書の作成	設計計算書を作成する
		7週	設計計算書の作成	設計計算書を作成する
		8週	設計計算書の作成	設計計算書を作成する
	4thQ	9週	設計計算書の作成	設計計算書を作成する
		10週	模型製作	設計計算書に従い，評価試験用の模型を作成する.
		11週	模型製作	設計計算書に従い，評価試験用の模型を作成する.
		12週	模型製作	設計計算書に従い，評価試験用の模型を作成する.
		13週	模型製作	設計計算書に従い，評価試験用の模型を作成する.
		14週	評価試験	評価試験を実施して，設計計算書との違いを考察する
		15週	レポート作成	レポートを作成する.
		16週	レポート作成	レポートを作成する.

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	10	0	0	50	20	100
基礎的能力	10	10	0	0	20	10	50
専門的能力	10	0	0	0	30	10	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別演習Ｉ

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	指定しない		
担当教員	虻川 和紀		

到達目標

本科で学んだ専門的知識だけにとらわれず，人文・社会学や一般自然科学についての知識も総合し，与えられた課題に取り組み，成果を上げることができる.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
知識の総合化	複数の知識を総合し，応用的な課題に対して成果を上げることができる.	複数の知識を総合し，基本的な課題に対して成果を上げることができる.	複数の知識を総合できず，基本的な課題に対しても成果を上げることができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本講義は，専門科目，人文・社会学や一般自然科学を含めた広く本科で学んだ内容を総合して課題に取り組むものである.
授業の進め方・方法	本講義は複数の担当者により実施される．進め方や授業内容・方法は担当者により異なる.
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	テーマ①に関する取り組み	ガイダンス
		2週	テーマ①に関する取り組み	
		3週	テーマ①に関する取り組み	
		4週	テーマ①に関する取り組み	
		5週	テーマ①に関する取り組み	
		6週	テーマ①に関する取り組み	
		7週	テーマ①に関する取り組み	
		8週	テーマ①に関する取り組み	
	2ndQ	9週	テーマ①に関する取り組み	
		10週	テーマ①に関する取り組み	
		11週	テーマ①に関する取り組み	
		12週	テーマ①に関する取り組み	
		13週	テーマ①に関する取り組み	
		14週	テーマ①に関する取り組み	
		15週	テーマ①に関する取り組み	
		16週	テーマ①に関する取り組み	
後期	3rdQ	1週	テーマ②に関する取り組み	ガイダンス
		2週	テーマ②に関する取り組み	
		3週	テーマ②に関する取り組み	
		4週	テーマ②に関する取り組み	
		5週	テーマ②に関する取り組み	
		6週	テーマ②に関する取り組み	
		7週	テーマ②に関する取り組み	
		8週	テーマ②に関する取り組み	
	4thQ	9週	テーマ②に関する取り組み	
		10週	テーマ②に関する取り組み	
		11週	テーマ②に関する取り組み	
		12週	テーマ②に関する取り組み	
		13週	テーマ②に関する取り組み	
		14週	テーマ②に関する取り組み	
		15週	テーマ②に関する取り組み	
		16週	テーマ②に関する取り組み	

評価割合

	課題，レポート，発表等	合計
総合評価割合	100	100
知識の総合化	100	100

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境生物工学

科目基礎情報

科目番号	0018	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	プリントを配付		
担当教員	上村 繁樹		

到達目標

・バイオレメディエーションの基本的な理論とその応用事例について説明できる
・環境浄化に関わる生物学の基礎知識について説明できる
・酵素反応速度の発展的な計算や基礎的な生体反応の簡単な熱力学計算ができる
・　分子生物学の基礎とその環境微生物検出の応用について説明できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	応用問題が解ける	十分な理解を得ている	理解していない
評価項目2	応用問題が解ける	十分な理解を得ている	理解していない
評価項目3	応用問題が解ける	十分な理解を得ている	理解していない
評価項目4	応用問題が解ける	十分な理解を得ている	理解していない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	建設工学でも昨今は環境保全のためにバイオレメディエーションの知識や応用力が必要とされる。本講義では、バイオレメディエーションの理解と応用のための、生物工学的な基礎知識と応用問題を学習する。本科目は企業で環境保全プラント関係の研究・開発、設計等の業務を担当していた教員が，その経験を活かし，バイオレメディエーションやその生物化学的理解の知見を講義形式で授業を行うものである.
授業の進め方・方法	講義形式が主だが、演習・レポート課題も多く行う。
注意点	本科目では、環境浄化、環境修復を論じるうえで、欠かすことのできない基礎知識の修得を目的とするため、化学、生物学などをよく復習し、解らなければ随時質問に来ること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	バイオレメディエーション１	バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する
		2週	バイオレメディエーション２	バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する
		3週	バイオレメディエーション３	バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する
		4週	バイオレメディエーション４	バイオレメディエーションの理論とその応用事例を理解する
		5週	生物学の基礎１	細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する
		6週	生物学の基礎２	細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する
		7週	生物学の基礎３	細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する
		8週	生物学の基礎４	細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する
	2ndQ	9週	生物学の基礎５	細胞構造や遺伝子、遺伝情報の伝達、酵素反応などの基礎知識を理解する
		10週	酵素反応速度論１	ミカエルス・メンテン式とその発展形の理論を理解する
		11週	酵素反応速度論２	ミカエルス・メンテン式とその発展形の理論を理解する
		12週	酵素反応速度論３	ミカエルス・メンテン式とその発展形の理論を理解する
		13週	分子生物学の基礎１	分子生物学の基礎およびその応用としての特定遺伝子検出技術の理論を理解する
		14週	分子生物学の基礎２	分子生物学の基礎およびその応用としての特定遺伝子検出技術の理論を理解する
		15週	熱力学１	平衡熱力学と生体反応の関係を理解する
		16週	熱力学２	平衡熱力学と生体反応の関係を理解する

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	0	0	0	20	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	構造数値解析学

科目基礎情報

科目番号	0019	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	なし		
担当教員	原田 健二		

到達目標

数値計算手法の基礎を理解し，弾性体の力学的挙動解析のための技術の基礎を習得すること。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
部材の剛性マトリックス	部材の剛性マトリックスの基礎を理解し，一般式を誘導できる	部材の剛性マトリックスの基礎を理解できる	部材の剛性マトリックスを理解できない
有限要素法の基礎	有限要素法の基礎式を理解し，解のメッシュ依存性を理解できる	有限要素法の基礎式を理解できる	有限要素法の基礎式を理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	これまでに学習した構造力学の内容を踏まえて、数値解析手法について学習する。また有限要素法を適用した構造計算について学ぶ。
授業の進め方・方法	・授業時間に対して倍の時間の予習・復習を行うこと。 ・授業中に演習問題を課すので、解答できるようになるまで何度でも復習すること。
注意点	本授業は、講義を通じて骨組構造物の振動解析の基礎を理解すること、有限要素解析の基礎を理解することが目的であり、あいまいな点があれば随時質問に訪れること. ExcelのVBAを用いて骨組構造物の有限要素解析を行う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	部材の剛性マトリックス	部材の剛性マトリックスの一般式を誘導できる
		2週	部材の剛性マトリックス	部材の剛性マトリックスの一般式を誘導できる
		3週	部材の剛性マトリックス	部材の剛性マトリックスの一般式を誘導できる
		4週	部材の剛性マトリックス	部材の剛性マトリックスの一般式を誘導できる
		5週	有限要素法の基礎	有限要素法の基礎式を理解できる
		6週	有限要素法の基礎	有限要素法の基礎式を理解できる
		7週	有限要素法の基礎	有限要素法の基礎式を理解できる
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	有限要素法による解法	有限要素法による構造計算ができる
		10週	有限要素法による解法	有限要素法による構造計算ができる
		11週	有限要素法による解法	有限要素法による構造計算ができる
		12週	骨組構造物の載荷実験	有限要素法により載荷実験の再現計算ができる
		13週	骨組構造物の載荷実験	有限要素法により載荷実験の再現計算ができる
		14週	骨組構造物の載荷実験	有限要素法により載荷実験の再現計算ができる
		15週	後期定期試験	
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	40	0	40
専門的能力	0	0	0	0	0	60	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	応用構造工学

科目基礎情報

科目番号	0020	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	プリント配布		
担当教員	石井 建樹		

到達目標

応力，ひずみ，構成則について理解でき，有限要素法の基本的な考え方を理解できる.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
応力，ひずみ	応力，ひずみをテンソルとして理解できる.	応力，ひずみを理解できる.	応力，ひずみを理解できない.
構成則	構成則の役割を正しく理解できる	構成則の概念を理解できる.	構成則の概念を理解できない.
有限要素法	要素，物理法則などの有限要素法における概念を正しく理解できる	要素，物理法則などの役割を理解し，有限要素法のイメージができる.	有限要素法をイメージできない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	固体力学を例として，物理法則や有限要素などの考え方を学び，有限要素法の全体像とその算出結果について学ぶ.
授業の進め方・方法	・授業90分に対して，倍以上の予習及び復習を行うこと. ・これまで学習した力学に関する知識を整理しながらまとめ直しておくことが望ましい. ・補助教科書として，以下の書籍を挙げておくので，適宜，理解の助けとすること. (1)泉聡志・酒井信介著『実践有限要素法シミュレーション』森北出版、2008年 (2)A First Course in Finite Elements, J. Fish and T. Belytschko(訳本:有限要素法,山田 貴博監訳,永井学士,松井和己訳)他
注意点	これまで学習した力学の知識を用いるので，必要に応じて復習することが肝要である.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	産業界における有限要素法の活用事例などを学ぶ.
		2週	応力，ひずみ，構成則	線形弾性体を例に，応力，ひずみ，構成則について学ぶ.
		3週	応力，ひずみ，構成則	線形弾性体を例に，応力，ひずみ，構成則について学ぶ.
		4週	応力，ひずみ，構成則	線形弾性体を例に，応力，ひずみ，構成則について学ぶ.
		5週	応力，ひずみ，構成則	線形弾性体を例に，応力，ひずみ，構成則について学ぶ.
		6週	平面応力，平面ひずみ	２次元問題における構成則の考え方を学ぶ.
		7週	平面応力，平面ひずみ	２次元問題における構成則の考え方を学ぶ.
		8週	中間試験	中間試験までの内容
	2ndQ	9週	有限要素近似	要素の役割について学ぶ
		10週	有限要素近似	要素の役割について学ぶ
		11週	剛性方程式	要素剛性，全体剛性について学ぶ
		12週	剛性方程式	要素剛性，全体剛性について学ぶ
		13週	境界値問題	境界条件の必要性について学び，その解法について学習する.
		14週	物体の変形と物体に生じる応力	物体の変形と物体に生じる応力の計算方法について学ぶ
		15週	定期試験	これまでの学習内容
		16週	解説	解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	50	0	0	0	10	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境情報・保全工学

科目基礎情報

科目番号	0021	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に定めない．必要に応じて資料を配布する．		
担当教員	湯谷 賢太郎		

到達目標

都市計画の概観を理解し，今後の都市の在り方について自ら考え意見を述べることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
都市計画の基礎	都市計画の基礎的事項について説明できる	都市計画の基礎的事項について概ね説明できる	都市計画の基礎的内容を理解できない
都市の抱える問題	現在の都市の抱える問題を理解し，解決に向けた取り組みについて説明できる	現在の都市の抱える問題を理解している	現在の都市の抱える問題を知らない
今後の都市の在り方	今後の都市の在り方について，自らの考えを持ち，それを説明できる	今後の都市の在り方について，自らの意見がある	今後の都市の在り方について，自らの意見がない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本講義では，所謂「都市計画」について学ぶ。基本的事項の他に，現在の都市が抱える少子高齢化，人口減少，中心市街地の衰退などについても学ぶ。
授業の進め方・方法	講義は，板書の他にプロジェクターで図表や写真を提示しながら進める。 成績の評価は，出席シート（20%）とレポート（80%）で行う。 参考図書： ・平田登基男，他『都市計画 (環境・都市システム系教科書シリーズ)』コロナ社，2007年 ・日笠端，日端康雄『都市計画 第3版増補』共立出版，2015年 ※都市計画関連書籍は教科書以外にも多数出版されているので，ぜひ興味がある本を読んでもらいたい。
注意点	本講義は選択科目である。自分の興味や進路などをよく考慮の上，受講してもらいたい。都市計画は土木環境工学のすべての分野に関連する根本ともいうべき内容であるが，本科では学んでこなかった。特に公務員志望者は是非この機会にしっかりと学んでほしい。また，本講義では学ぶだけでなく，自分の考えをしっかり持つことが大切である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス，都市計画とは	
		2週	都市の歴史と理想都市，後藤新平と帝都復興計画	都市の歴史について理解する
		3週	都市の歴史と理想都市，田園都市，大ロンドン計画	都市計画法の歴史について理解する
		4週	都市の歴史と理想都市，近隣住区論とニュータウン	都市計画法の歴史について理解する
		5週	都市計画と関連法規	都市計画法について理解する
		6週	都市計画の策定，マスタープラン	総合計画とマスタープランについて理解する
		7週	都市計画の策定	都市計画の流れについて理解する
		8週	土地利用計画，用途地域，地域地区	土地利用に関する制度について理解する
	4thQ	9週	土地利用計画，様々な地区	様々な制度について理解する
		10週	都市交通と都市交通施設	交通の考え方と様々な交通施設について理解する
		11週	都市交通と都市交通施設	四段階推定法と費用便益法について理解する
		12週	都市の整備手法，土地区画整理事業，市街地再開発事業	土地区画整理事業や市街地再開発事業について理解する
		13週	課題作成	
		14週	課題作成	
		15週	課題発表	
		16週	予備日	

評価割合

	出席シート	レポート	合計
総合評価割合	20	80	100
都市計画の基礎	20	40	60
都市の抱える問題	0	20	20
今後の都市の在り方	0	20	20

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別研究Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0022	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習（クラス形式）	単位の種別と単位数	学修単位: 6
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	各研究テーマに関する参考書や学術論文		
担当教員	青木 優介,石井 建樹,上村 繁樹,大久保 努,鬼塚 信弘,島﨑 彦人,湯谷 賢太郎,原田 健二,虻川 和紀		

到達目標

・ 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。
・ 与えられたテーマについての専門知識を身につける。
・ これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	研究成果について、発表・討論する応用能力を身につける。	研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	研究成果について、発表・討論する能力を身につけられない。
評価項目2	与えられたテーマについての専門知識の応用を身につける。	与えられたテーマについての専門知識を身につける。	与えられたテーマについての専門知識を身につけられない。
評価項目3	これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する応用能力を身につける。	これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけられない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	特別研究中間発表会：年度末に実施する。 特別研究年間報告書：年度末に提出する。 予定される研究テーマを以下に示す。 主　査：上村繁樹 副　査：大久保努 テーマ：DHSリアクターにおける重金属蓄積機構の解明 主　査：鬼塚信弘 副　査：石井建樹 テーマ：砂鉄混合土の液状化強度特性 主　査：鬼塚信弘 副　査：青木優介 テーマ：フライアッシュ混合土の強度特性 主　査：島﨑彦人 副　査：湯谷賢太郎 テーマ：人工衛星リモートセンシングによる広域環境監視 主　査：島﨑彦人 副　査：湯谷賢太郎 テーマ：小型無人航空機システムを用いた生息環境調査 主　査：島﨑彦人 副　査：湯谷賢太郎 テーマ：エージェントベースモデルによる環境動態シミュレーション 主　査：青木優介 副　査：鬼塚信弘 テーマ：高温の溶融金属の落下を受けたコンクリートの損傷状況 主　査：青木優介 副　査：鬼塚信弘 テーマ：鉄粉散布法による鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃度の設定に関する検討 主　査：青木優介 副　査：石井建樹 テーマ：新設コンクリート中の鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃度の早期判定手法 主　査：青木優介 副　査：石井建樹 テーマ：硝酸銀溶液噴霧法の実施時の各種条件が結果に与える影響 主　査：石井建樹 副　査：青木優介 テーマ：複合材料における強度発現メカニズムの解明 主　査：石井建樹 副　査：青木優介 テーマ：複合材料における微視的異方性の影響 主　査：湯谷賢太郎 副　査：島﨑彦人 テーマ：トウキョウサンショウウオの基礎的生態と保全に関する研究 主　査：大久保努 副　査：上村繁樹 テーマ：灌漑利用時におけるノロウイルスを対象とした定量的微生物リスク評価
授業の進め方・方法	研究は主査教員、副査教員の指導のもと、年間を通して自ら自主的に進める。研究の成果を特別研究中間発表会にて発表し、デザイン能力やコミュニケーション能力を高めるとともに、特別研究年間報告書を作成して論理的記述力を高める。

注意点	研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異質のものであることを認識することが大切である。研究成果を学会等で発表することは、研究の客観的評価が得られるため、積極的な外部への発表を心がける。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	研究テーマの選定と研究計画	研究テーマの選定と研究計画を立てることができる。
		2週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		3週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		4週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		5週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		6週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		7週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		8週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
	2ndQ	9週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		10週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		11週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		12週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		13週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		14週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		15週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		16週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
後期	3rdQ	1週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		2週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		3週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		4週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		5週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		6週	抄録作成	専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な抄録を作成することができる。
		7週	発表資料作成	研究成果について、発表・討論するための発表資料を作成することができる。
		8週	発表練習	研究成果について、発表・討論するための練習を行うことができる。
	4thQ	9週	特別研究中間発表会	研究成果について、発表・討論することができる。
		10週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		11週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		12週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		13週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		14週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		15週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		16週	研究の統括	年間を通して、専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけたかどうかを確認することができる。

評価割合

	発表会	報告書	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	現代文明

科目基礎情報

科目番号	0025	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	教科書なし		
担当教員	武長 玄次郎		

到達目標

現代社会の抱える問題点について主体的に考え、また一見現代とは無関係な広大の社会や宗教について現代との関わりという観点から認識を深める。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	現代文明が抱える様々な問題点を理解し、解決策について展望できる	現代文明の問題点を認識できる	現代文明の問題について理解できない
評価項目 2	現代文明の歴史的背景について認識し、説明できる	現代文明の歴史的背景を一定程度理解できる	現代文明の歴史的背景を理解できない
評価項目 3	現代文明を政治・経済・科学技術など様々な観点から評価することができる	現代文明の多面性を一定程度理解できる	現代文明の評価が十分にできない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文明の成り立ちとその歴史的拝見について常に考え、一見無関係なところから現代人が抱える問題点の解決策を探っていく
授業の進め方・方法	講義形式を主とし、適宜映像教材を用いる
注意点	授業90分に対して、配布資料や紹介する教材を用いて180分以上の予習と復習を実施すること

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	民主主義	民主主義の成果と問題点を、主に先進国の現状から理解できる
		2週	独裁主義	独裁政治の問題点を、過去の事例から理解できる
		3週	明治日本における民主主義の萌芽	明治期日本に民主主義の芽が育たなかった理由を理解できる
		4週	戦争と虐殺	現代における戦争や虐殺を歴史的観点から理解できる
		5週	民主主義と商業主義	民主主義と商業主義の結合をアメリカの事例で理解できる
		6週	技術は人を救うか	技術者が人々に幸福をもたらす可能性を実例から理解できる
		7週	世界の覇権をめぐって	世界の覇権争いの実情を理解できる
		8週	文化相対主義	世界各国の文化を尊重する思想を理解できる
	2ndQ	9週	ギリシア文明の成立	世界の民主主義の源流といえるギリシア文明を理解できる
		10週	ローマ帝国の光と影	ローマ帝国がもたらした繁栄と悲惨な破壊を理解できる
		11週	エジプト文明	エジプト文明の成果と限界を理解できる
		12週	中国の成立	アジアの巨人、中国の誕生の背景を理解できる
		13週	インドと仏教	インド文明と仏教成立について理解できる
		14週	キリスト教の誕生	世界最大の宗教の成立事情を理解できる
		15週	イスラム教の成立	イスラム教とイスラム文化について理解できる
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	0	0	50
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	30	0	0	0	0	30

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	技術倫理

科目基礎情報

科目番号	0026	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	指定しない．必要な資料はプリントで配布する．		
担当教員	小谷 俊博		

到達目標

・ 一般的な倫理学理論および技術者倫理に特化した理論を理解すること
・ 技術者の社会における位置づけおよび役割を理解すること
・ 技術者が実際に直面した事例をもとに、どのような倫理的判断が可能かについて展望を持つことができる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	技術者に特有の倫理問題とは何かを明確に説明できる。	技術者に特有の倫理問題とは何かをある程度説明できる。	技術者に特有の倫理問題とは何かが説明できない。
評価項目2	技術者が直面してきた具体的な事例について明確に説明できる。	技術者が直面してきた具体的な事例についてある程度説明できる。	技術者が直面してきた具体的な事例について説明できない。
評価項目3	倫理問題に直面した際に適切に議論することができる。	倫理問題に直面した際にある程度議論することができる。	倫理問題に直面した際に議論することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	講義により基本知識を獲得し、小テストあるいはレポート課題によりその習得を目指す。
授業の進め方・方法	知識習得のための講義を中心とするが、講義内では課題やディスカッションの機会も設ける。なお、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートやプリントによる課題を実施します。
注意点	自分が今後遭遇する可能性のある問題が扱われていることを自覚することが大切である。その上で、知識の習得と併せて、自分自身の考えを構築していこうとする努力が必要である。また、英語の文献を扱うことがある。予習・復習の課題として出すこともあるが、英語文献の基本的な読解力はエンジニアにとって必須であることを理解し、積極的に取り組むこと。講義内で、英文読解についても簡単な説明は与える。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	講義の方針等について理解する。
		2週	技術者倫理の基礎知識①	説明責任、製造物責任等の基本的な知識を習得する。
		3週	技術者倫理の基礎知識②	法令遵守の重要性および情報倫理の基本的な知識を習得する。
		4週	技術者倫理の基礎知識③	持続可能性を含めた環境倫理の基本的な知識を習得する。
		5週	技術者倫理の基礎知識④	国際社会における技術者の役割と責任について考える。
		6週	技術者倫理の基礎知識⑤	知的財産についての基本的な知識を習得する。
		7週	リスク①	リスクの基本的な考え方を理解する。
		8週	リスク②	リスク認知の概要を理解する。
	4thQ	9週	リスク③	リスクコミュニケーションの概要を理解する。
		10週	ヒューマンエラー①	ヒューマンエラーとは何かについの基本的な考えを理解する。
		11週	ヒューマンエラー②	ヒューマンエラーが起こる背景について理解する。
		12週	ヒューマンエラー③	ヒューマンエラーの観点から、現場の改善について考える。
		13週	ヒューマンエラー④	安全のための態度や防護の方法について理解する。
		14週	ケーススタディ	近年の技術者倫理で問題になるトピックを学び、技術者倫理で学んだ内容をどのように活かすことが出来るかを理解する。
		15週	全体のまとめ	講義を総括し、今後に活かすべき課題を理解する。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	地震防災工学通論

科目基礎情報

科目番号	0023	科目区分	専門 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	配布資料		
担当教員	鬼塚 信弘		

到達目標

・地震の基礎知識を理解することができる。
・地震防災の基礎知識を理解し、設定したテーマのレポートを作成することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	地震防災工学に関する基礎知識を幅広く理解できる。	地震防災工学に関する基礎知識を理解できる。	地震防災工学に関する基礎知識を理解できない。
評価項目2	地震時の自主防災マップの作成方法の応用を習得できる。	地震時の自主防災マップの作成方法の応用を習得できる。	地震時の自主防災マップの作成方法を習得できない。
評価項目3	地震防災リーダーとしての資質を幅広く身に付けている。	地震防災リーダーとしての資質を身に付けている。	地震防災リーダーとしての資質を身に付けていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	近年、世界各地で地震が多発し、特に環太平洋にある日本では4つのプレートがあり、大きな地震を引き起こす可能性か高くなっている。本講義では断層、地震動とがけ崩れ・地すべり、断層の変位、津波、液状化等について、被災状況の調査資料、ビデオなどを用いながら理解を深め、地震時の防災のあり方を学習する。本講義を通して、地域や家庭、職場での地震防災リーダーとしての資質を身に付けてもらうことを目標とする。
授業の進め方・方法	授業は教室で配布資料に沿って行う講義形式で、毎授業時間内で課題、授業時間外でも課題を課す。授業内容・方法は地震と断層、地震動とがけ崩れ・地すべり、断層の変位、津波と地殻変動、液状化、地震発生に伴う火災、被災に遭った人々の心理、地震時の適切な避難方法と心構え、地震時の自主防災マップの作成の内容を講義を通して理解を深める。
注意点	地震、地震防災に関する話題はテレビやインターネット、新聞などにしばしば取り上げられているのでこれらの話題に関心を持つ同時に、図書館に揃えてある地震関連図書にも関心を持つ。授業90分に対して、配布資料やインターネット、新聞などを活用して180分以上の予習・復習を行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	地震防災工学通論の学際的な科目の位置付けと概要について理解できる。
		2週	地震と断層	地震と断層について理解できる。
		3週	地震動とがけ崩れ・地すべり	地震動とがけ崩れ・地すべりについて理解できる。
		4週	断層の変位	断層の変位について理解できる。
		5週	津波と地殻変動	津波と地殻変動について理解できる。
		6週	液状化	液状化について理解できる。
		7週	地震発生に伴う火災	地震発生に伴う火災について理解できる。
		8週	後期中間試験	後期中間試験までの学習内容を理解できる。
	4thQ	9週	後期中間試験の解説 被災に遭った人々の心理	後期中間試験答案を返却し、解説を受けて確認できる。被災に遭った人々の心理を理解できる。
		10週	地震時の適切な避難方法と心構え地震時の自主防災マップの作成	地震時の適切な避難方法と心構えを理解できる。地震を想定した自主防災マップの課題を提示する。
		11週	地震時の自主防災マップの作成	地震を想定した自主防災マップを作成できる。
		12週	地震時の自主防災マップの作成	地震を想定した自主防災マップを作成できる。
		13週	地震時の自主防災マップの作成	地震を想定した自主防災マップを作成できる。
		14週	地震時の自主防災マップの作成	地震を想定した自主防災マップを作成できる。
		15週	後期定期試験	実施しない。
		16週	後期定期課題の解説	後期定期課題の解説を受けて、確認できる。

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	40	60	100
分野横断的能力	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境化学特論

科目基礎情報

科目番号	0024	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	必要に応じて資料を配布		
担当教員	佐久間 美紀		

到達目標

・ 大気環境や水環境に概要について理解し，化学的視点から説明できる。
・ 汚染物質の処理や廃棄物のリサイクルについて説明できる。
・ 微量物質の環境に対する影響や，化学物質の計量法について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地球環境問題について化学的視点から説明できる。	地球環境問題の種類と概要を言える。	地球環境問題の種類と概要を言えない。
評価項目2	環境汚染の浄化や廃棄物のリサイクルの方法および概要について理解し説明できる。	環境汚染の浄化や廃棄物のリサイクル方法の種類を言える。	環境汚染の浄化や廃棄物のリサイクル方法の種類を言えない。
評価項目3	微量汚染物質の測定・分析方法の種類や概要について理解し説明できる。	微量汚染物質の測定・分析方法の種類を言える。	微量汚染物質の測定・分析方法の種類を言えない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	環境に関連する分野は非常に広いが，大気環境や水環境を中心に化学的な視点から説明を行う。また，様々な微量物質の環境への影響とその分析・測定方法についての説明を行う。
授業の進め方・方法	授業はパワーポイントを用いて講義形式が中心となり，試験は定期試験の１回のみ実施する。また，この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートと課題発表を各１～２回課すことがあります。
注意点	講義内容や自分自身の研究と環境との係わりに関する調査や発表を課題として課すので，積極的に取り組み，パワーポイントを用いた口頭発表も行うので，資料準備や練習を行い高い完成度に出来るように努力すること。また，授業90分に対して補助教科書や配布プリントを活用して90分以上の予習・復習を行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	地球環境と化学	地球環境問題の概要について説明できる。
		3週	大気環境①	大気汚染の概要と大気汚染物質の化学的特性について理解できる。
		4週	大気環境②	悪臭物質と化学的特性について理解できる。
		5週	まとめ	
		6週	水環境①	水質汚濁の概要について理解できる。
		7週	水環境②	酸性雨の概要について理解できる。
		8週	廃棄物とリサイクル	廃棄物の概要および現状と，そのリサイクルについて理解できる。
	2ndQ	9週	環境とエネルギー	エネルギーの歴史と日本のエネルギーの将来について理解できる。
		10週	環境化学物質の計測法 微量汚染物質	主な環境汚染物質の測定法について説明できる。 環境汚染物質の概要について理解できる。
		11週	化学物質のリスク	環境物質のリスクやその評価について理解できる。
		12週	最新環境浄化技術	
		13週	まとめ	
		14週	課題発表	
		15週	定期試験	
		16週	試験返却	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20	0	0	0	30	100
基礎的能力	50	20	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	技術英語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0027	科目区分	専門 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Basic English for Science (南雲堂)		
担当教員	石出 忠輝		

到達目標

1.英語で書かれた科学・技術論文における特徴的な英語表現を理解し，専門分野に関する情報を英語で表現できる.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	英語で書かれた科学・技術論文における特徴的な英語表現を理解し，専門分野に関する情報を英語で表現できる.	語で書かれた科学・技術論文における特徴的な英語表現を理解できる.	左記ができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	本授業は，国際会議等における学術論文の作成及びプレゼンテーションに必要な実用的英語表現について学ぶ.
授業の進め方・方法	教科書に沿って，英語による対話方式の講義を進めていく. 数字や記号の読み方を，リスニング，ディクテーションを繰り返しながら学んでいく. 毎週，復習し，応用力を高めるための宿題を課す.
注意点	インターネットやテレビ番組等を用いて英文コンテンツに毎日接し，英語に慣れることが肝要である. 授業で取り上げた英語表現を繰り返し音読し，日々の研究活動の中で積極的に取り入れていく姿勢が望まれる. 不明な点がないよう各自しっかり復習し，わからなければ随時質問に訪れること.

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Dimensions，Angles and Lines	物体の形状や大きさ，様々な角度と線についての英語表現ができる.
		2週	Basic Formulae	基本的な数式の読み方を説明できる.
		3週	More Complex Formulae	ギリシャ文字を含む複雑な式の読み方を説明できる.
		4週	Position，Movements and Actions	物の位置を表す前置詞，動作を表す動詞，方向を表す副詞句を説明できる.
		5週	Qualities of Materials	物質の性質を表す英語表現ができる.
		6週	Classification，Definition and Description	物質の分類，定義を表す英語表現ができる.
		7週	More Description	物の描写の英語表現ができる.
		8週	Consolidation(1)	第1～7週までの復習を行い，理解度を高める.
	2ndQ	9週	Instructions and Explanations	指示を与える動詞やプロセスの説明の仕方に関する英語表現ができる.
		10週	Cause and Reason, and Similarity，Comparison and Contrast	原因と結果，ものを比較・対照する英語表現ができる.
		11週	Probable and Hypothetical Result，Possible Cause and Result	結果を予想・仮定する英語表現ができる.
		12週	Reporting Actions	英文によるレポートの書き方を説明できる.
		13週	Stating Conclusions，Describing an Experiment	英文による結論の述べ方，実験内容の記述の仕方を説明できる.
		14週	Stating Results	英文による実験結果の述べ方を説明できる.
		15週	Consolidation(2)	第9～14週までの復習を行い，理解度を高める.
		16週	前期定期試験	試験実施

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	30	0	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	0	0	0	0	70	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	応用材料工学

科目基礎情報

科目番号	0028	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	担当者作成の資料を使用する		
担当教員	青木 優介		

到達目標

・コンクリート構造物の非破壊検査を理解する。
・コンクリート構造物の維持管理を理解する。
・コンクリート構造物の補修について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
非破壊検査	コンクリート構造物の非破壊検査について他者に説明できる。	コンクリート構造物の非破壊検査について理解できる。	コンクリート構造物の非破壊検査について理解できない。
維持管理	コンクリート構造物の維持管理について他者に説明できる。	コンクリート構造物の維持管理について理解できる。	コンクリート構造物の維持管理について理解できない。
補修	コンクリート構造物の補修について他者に説明できる。	コンクリート構造物の補修について理解できる。	コンクリート構造物の補修について理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・コンクリート構造物の現状と課題について学ぶ。 ・コンクリート構造物の診断にあたって，非破壊検査ならびに微破壊検査を体験し，理解する。 ・コンクリート構造物の補修方法について学ぶ。
授業の進め方・方法	・実橋の点検やコンクリートコア採取など，実習形式を多く取り入れる。 ・本科目は学修単位科目であり，自学自習が必要である。 ・なお，質問がある場合には，随時受け付ける。
注意点	・点検や作業も安全第一である。緊張して参加すること。 ・本科目は学修単位科目であり，授業時間の2倍以上の自学自習時間を要する。 ・寒い時期の作業になることもある。防寒など万全で臨むこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 説明資料の配布	本科目の方針や評価方法を学ぶ
		2週	コンクリート構造物の現状と課題	コンクリート構造物の現状と課題について学ぶ
		3週	点検の前に－コンクリート橋の基本－	ＲＣ，ＰＣ橋のちがい，橋の部分の名称などを学ぶ
		4週	点検の前に－要求性能と劣化メカニズム－	構造物の要求性能と劣化メカニズムを学ぶ
		5週	構造物の点検実習①	実橋を対象に構造物の点検実習を行う
		6週	構造物の点検実習②	実橋を対象に構造物の点検実習を行う
		7週	構造物の点検実習③	点検データシートの作成を行う
		8週	授業アンケート回答 構造物診断の流れ	授業アンケートに回答する 構造物診断実習の流れを学ぶ
	4thQ	9週	構造物の診断実習①	鉄筋探査とコア採取を実習する
		10週	構造物の診断実習②	中性化深さ測定および劣化予測を実習する
		11週	構造物の診断実習③	反発硬度法による圧縮強度の推定を行う
		12週	構造物の補修	構造物の補修について学ぶ
		13週	レポート作成演習①	レポートの作成演習を行う
		14週	レポート作成演習②	レポートの作成演習を行う
		15週	授業の総括	授業を振り返る
		16週		

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
非破壊検査	0	40	0	0	0	0	40
維持管理	0	40	0	0	0	0	40
補修	0	20	0	0	0	0	20

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	応用地盤工学

科目基礎情報

科目番号	0029	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	配布資料		
担当教員	鬼塚 信弘		

到達目標

・発生土利用の考え方を理解できる。
・発生土の土質区分、適用用途について理解できる。
・発生土の用途別利用方法を理解できる。
・発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	建設発生土の有効利用の応用について理解できる。	建設発生土の有効利用の基礎を理解できる。	建設発生土の有効利用の基礎を理解できない。
評価項目2	建設発生土を用いた建設工事の設計施工に幅広く応用できる。	建設発生土を用いた建設工事の設計施工に応用できる。	建設発生土を用いた建設工事の設計施工に応用できない。
評価項目3	建設発生土の力学特性の応用について理解できる。	建設発生土の力学特性の基礎を習得できる。	建設発生土の力学特性の基礎を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現在、土の構造物を建設するにあたって、新材はもとより建設発生土などの再生材の性質を知らなければならない。後者の建設発生土については、国土交通省が関係機関へ通知した「発生土利用基準」に基づき、有効利用されている。しかし、建設発生土は土と同様に特異な性質を持つと同時に、建設発生土を地盤とした時の特有な現象も見られることから、建設発生土の土構造物の安定性や建設発生土地盤内を透水する地下水の状態を把握することも重要である。本科目は、建設発生土の物理現象や化学現象、土質試験法を学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は教室で配布資料に沿って行う講義を中心に、理解度を上げるために実験を取り入れた形式で行う。授業内容・方法は建設発生土の有効利用、建設発生土の力学特性の内容を講義中心に理解を深める。
注意点	近年、ものをリサイクルすることが推進され、地盤工学分野においても建設工事に伴う発生土を有効利用する動きが広まっている。発生土を有効利用する上で、発生土利用基準の適合や技術的な課題を明確にする必要がある。これを機会に土質力学、地盤工学について復習してほしい。また、「土木学会論文集」、「土木学会誌」、「土と基礎」などの論文や学会誌、雑誌、地盤に関する本にも親しむことを推奨する。授業90分に対して、配布資料や補助教科書、参考図書などを活用して180分以上の予習・復習を行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	建設発生土の有効利用	発生土利用の概要について理解できる。
		2週	建設発生土の有効利用	発生土利用の考え方を理解できる。
		3週	建設発生土の有効利用	発生土利用の考え方を理解できる。
		4週	建設発生土の有効利用	発生土の土質区分、適用用途について理解できる。
		5週	建設発生土の有効利用	発生土の土質区分、適用用途について理解できる。
		6週	建設発生土の有効利用	発生土の用途別利用方法を理解できる。
		7週	建設発生土の有効利用	発生土の用途別利用方法を理解できる。
		8週	前期中間試験	前期中間試験までの学習内容を理解できる。
	2ndQ	9週	前期中間試験の解説	前期中間試験答案を返却し、解説を受けて確認できる。
		10週	建設発生土の力学特性	発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。
		11週	建設発生土の力学特性	発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。
		12週	建設発生土の力学特性	発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。
		13週	建設発生土の力学特性	発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。
		14週	建設発生土の力学特性	発生土の力学特性を理解しながら、土の破壊基準と土の異方性について理解ができる。
		15週	前期定期試験	実施しない。
		16週	前期定期課題の解説	前期定期課題の解説を受けて、確認できる。

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	50	50	100
分野横断的能力	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	創造設計工学

科目基礎情報

科目番号	0030	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	上田正仁、「考える力」の鍛え方、PHP文庫、2017年、640円（＋税）、ISBN: 978-4-569-76688-1		
担当教員	関口 明生		

到達目標

目的は、「自ら考え、創造する力」を本科目終了後も持続して培う人となることである。以下3点が必須の到達目標である。
1. 「問題を見つける力」を向上し、問題を自分なりに設定する手法を理解することができる。
2. 「解く力」を向上し、問題を解決するための手法を主体的に調べ解決へ導くことができる。
3. 「諦めない力」を向上し、問題解決に際し諦めず考え続けることについて必要性を理解し行動に移すことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
問題を見つける力	問題の本質を自分なりに見つけ明確に設定することができ、その過程を主体的に研鑽できる。	問題を自分なりに設定する手法を理解することができる。	問題を自分なりに設定する手法を理解することができない。
解く力	問題を解決するためにさまざまな手法を調べて応用することができ、その過程を主体的に研鑽できる。	問題を解決するための手法を、主体的に調べ解決へ導くことができる。	問題を解決するための手法を、主体的に調べ解決へ導くことができない。
諦めない力	問題解決に際し諦めず考え続けることについて、強く意識せずとも行動に表すことができる。	問題解決に際し諦めず考え続けることについて、必要性を理解し、行動に移すことができる。	問題解決に際し諦めず考え続けることについて、必要性を理解しないか、行動に移すことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	戦前の哲学者である三木清は、著書「人生論ノート」において「生命とは虚無を掻き集める力である。それは虚無からの形成力である。」と記し、考えず学ばず主体性がない人の危うさを当時の日本に投げかけた。思想・良心の自由が保障され生活もはるかに豊かになった現代においてはそのような問題は払拭されたと、あなたは思うだろうか。 本科目は「自ら考え、創造する力」を、各自の主体的学習を補助する形で、自ら培う訓練を行う。授業内容は基本的に答えのない問題を選定した。能動的な取り組みを真に期待する。
授業の進め方・方法	本科目の目的は、「自ら考え、創造する力」を本科目終了後も持続して培う人となることである。その点ではすでに目的や到達目標を達成していると人もいるかもしれないが、授業を通して何かしら新しい事柄や気づきがあるように授業内容を編成する。 ただし、この「自ら考え、創造する力」については、共通認識として確立された学問があるわけではなく、またそれを培うための方法論が確立されているわけでもない。これは、図書館やインターネットで少し調べれば即座にわかるであろう。 したがって本科目は、「考える力」や「創造する力」に対するマニュアル的事項については一部講義を行うが、基本的には対話を中心とした演習形式で進行する。全部で5つのケーススタディを予定しているが、授業時間外でも考えることができるように取り組む前の回で説明を行う。授業時間外でも継続して根気よく考える力を培うことを特に期待する。 本科目の目的に対する達成度はマニュアル力を問う方法では評価できないため、試験は実施しない。総合評価はポートフォリオ（提出物・発表資料など）と態度（諦めない事や持続的に取り組むことを重視するために出席・遅刻等の状況を含む）と相互評価により行う。
注意点	他の科目と同様に、授業内容を身につけて単位という第３者評価をもらうかどうかは一人一人の判断に委ねられており、教員はこれを支援することができても強制することができない。たとえば、受動的な姿勢で取り組み、提出物や出席が芳しく無いと、標準的な到達レベルを満たしているとは評価できない。ケーススタディや課題に際して行き詰まった際には、悩み込んでいるだけでは十中八九進展しない。文献を調査する、クラスメイトや教員と情報交換する、常に考えながらも別のことを行い発想を得る、などの対処を行うこと。 また、あまり探索をしないまま問題解決の答えが一つ見つかった際に、それを安直に最終的な答えとすること（局所解に陥ること）は避けるべきである。最終結果に至るまでの取り組みも評価する。このため、レポートには最終的な解決法に至るまでに調べたことについても記載するよう注意すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	履修ガイダンス Case study #1の説明	□ 技術を持つ者として、考える力の重要性を認識すると共に、考えて行動する意志がある。
		2週	【Case study #1】 創造する私の設計「『創造する力』とは何か。強化する方法は何か。」をメタ思考する。	□ 個人で考え、チームで考え、問題に対する答えをまとめるように努力することができる。
		3週	Toolbox #1：「考えの多様化・混沌化」、「類型・類語」、「巨人の肩の上」、「キュリオシティ・ドリブン」、「混沌を整理する」、など	□ 一つの物事に対して図書館でとことん執拗に調べることができる。発表に向けて情報をまとめる際にチームに貢献できる。
		4週	チーム発表 #1 発表とチームワーキングの相互評価 Case study #2の説明	□ 他者の考えや取り組みを知り客観的に評価することにより、自身を振り返って評価することができる。
		5週	【Case study #2】 「平面上の複数点列を短時間かつなめらかに通り部品をオンザフライ方式で運ぶための閉軌道の最適設計」を考える。	□ あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べる事ができる。
		6週	Toolbox #2：「問題を見つける力」、「諦めず根気よく調べぬく力」、「局所解で満足しない意識」、「類型・類語」、など	□ あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べ、解決方法を提案することができる。
		7週	#2 提出レポートの相互評価 Case study #3の説明	□ 他者の考えや取り組みを知り客観的に評価することにより、自身を振り返って評価することができる。
		8週	【Case study #3】 「テープを一定速度および最短時間で送るシステムの概念設計と効果定量化」を考える。	□ 答えが論理的に導出可能と考えられる場合に、現在持っている分野横断的知識を使って問題を解くプロセスにおいて何が重要であるか、自分なりに考えることができる。

	2ndQ	9週	Toolbox #3：「問題を論理的に整理する力」、「単純化する力」、「みずから考え抜く力」、など #3 チームワーキングの相互評価 Case study #4の説明	□ 答えが論理的に導出可能と考えられる場合に、自らの考えで、チームによる問題解決に貢献することができる。
		10週	【Case study #4】 アイデアを発想する私の設計「アイデア発想とその方法」をメタ思考する。	□ 授業内容を活用する意志を持って、特許文献の読み方・書き方・調べ方を理解し、特許文献を調べる事ができる。TRIZ（トゥリーズ）の考え方を理解できる。
		11週	Toolbox #4：「特許の読み方・書き方・調べ方」、「類型」、「ブリコラージュ（物や技術の水平思考）」、など	□ 自分の自由な発想・問題提起に基づいてたアイデアを、特許文献の書き方に沿って表現することができる。
		12週	Case study #5の説明	□ 自分の自由な発想・問題提起に基づいてたアイデアを、特許文献の書き方に沿って表現することができる。
		13週	【Case study #5】 「部屋の入室・退室速度のリアルタイム測定法の設計」を考える。	□ あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べる事ができる。
		14週	Toolbox #5：「問題を論理的に整理する力」、「単純化する力」、「考え抜く力」、「諦めず根気よく調べぬく力」、「局所解で満足しない意識」、「類型・類語」、など	□ あるニーズに対して何が問題の本質でありどのような解決が必要か、考え・見抜き・調べ、解決方法を提案することができる。
		15週	#4 提出レポートの相互評価 #5 提出レポートの相互評価	□ 他者の考えや取り組みを知り客観的に評価することにより、自身を振り返って評価することができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	20	30	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	30	0	0	30
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	20	0	50	0	70

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	磁性材料工学

科目基礎情報

科目番号	0031	科目区分	専門 / 必修選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	参考図書：強磁性体の物理 (上・下)近角 聡信 (著)		
担当教員	飯田 聡子		

到達目標

磁気の根源を理解し、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できる。
磁性体をその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを理解し説明できる。
応用面として、種々の磁性材料の特徴を理解し、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	磁気の根源を理解し、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できる。	磁気の根源を知り、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できる。	磁気の根源を知っているが、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について説明できない。
評価項目2	磁性体をその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを理解し説明できる。	磁性体をその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを知っており説明できる。	磁性体をその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを知っているが説明できない。
評価項目3	応用面として、種々の磁性材料の特徴を理解し、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できる。	応用面として、種々の磁性材料の特徴を知り、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できる。	応用面として、種々の磁性材料の特徴を知るが、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	磁気の根源を理解し、磁気に関する基本量および磁性体中での磁化について学ぶ。 磁性体をその性質によって分類し、原子のスピンの状態により物質の磁気特性に違いが生じることを学ぶ。 応用面として、種々の磁性材料の特徴を理解し、それらが自分の研究分野においてどのような物に利用されているかを学ぶ。
授業の進め方・方法	配布資料と板書を基に授業を進める。
注意点	基礎から理解することが重要である。いろいろな磁性材料に興味を持ち、自分の専門分野でどのように応用されているのか、自分から調べてみるとよい。 各自の専門分野とは異なる場合も多いので、積極的に質問をし理解すること。 授業90分に対して参考図書などを活用して180分以上の予習・復習を行うこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	磁性の基礎	電気と磁気の違いを学び、磁力線と磁束、磁極、磁気モーメントについて理解し説明できる。
		3週	原子の磁性(1)	スピン角運動量と磁気モーメントの関係を理解できる。
		4週	原子の磁性(2)	スピン磁気モーメントとボーア磁子を理解し、説明できる。
		5週	原子の磁性(3)	軌道磁気モーメントについて理解し説明できる。また、遷移元素が磁性を発現する理由を説明できる。
		6週	原子の磁性(4)	ゼーマン効果、磁気共鳴、フントの法則、交換作用、超交換作用について理解できる。
		7週	磁性の分類(1)	磁性の違いによる物質（常磁性・反磁性）の分類を理解し説明できる。
		8週	磁性の分類(2)	磁性の違いによる物質（反強磁性・強磁性）の分類を理解し説明できる。
	2ndQ	9週	強磁性特性(1)	強磁性体の磁化曲線と磁化過程、、磁壁、消磁について理解し説明できる。
		10週	強磁性特性(2)	磁性体中では磁化が生じること、および磁性体中の実効磁界、反磁界、実効透磁率について理解し説明できる。
		11週	強磁性特性(3)	硬磁性材料と軟磁性材料について磁気的特性を理解し、その応用原理を説明できる。
		12週	磁性材料の応用(1)	磁気センサなどついて知り、簡単な動作原理を説明できる。
		13週	磁性材料の応用(2)	磁性材料の応用例として、変圧器、モータ、磁気記録などについて知り、簡単な原理を説明できる。
		14週	磁性材料の応用(3)	自分の研究分野における磁性材料の応用例をレポートに纏め、説明できる。
		15週	定期試験	
		16週	試験返却・解説	

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0

専門的能力	70	10	80
分野横断的能力	10	10	20

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	技術論

科目基礎情報

科目番号	0032	科目区分	専門 / 選択
授業形態	演習（オムニバス形式）	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	1
教科書/教材			
担当教員	栗本 育三郎,鈴木 聡,上村 繁樹		

到達目標

・技術史についてその概要を理解し説明することができる。
・技術開発や研究成果の権利化、知的財産権ついて修得する。
・身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼を修得する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	技術史についてその概要を理解し人に説明することができる。	技術史についてその概要を理解しある程度説明することができる。	技術史についてその概要を理解し説明することができない。
評価項目2	技術開発や研究成果の権利化、知的財産権ついて修得できる。	技術開発や研究成果の権利化、知的財産権ついてある程度修得できる。	技術開発や研究成果の権利化、知的財産権ついて修得できない。
評価項目3	身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼を修得できる。	身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼をある程度修得できる。	身近な環境問題についての認識を深め、科学的に環境を見る眼を修得できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	我が国における近代工業教育の発生過程を振返り、技術と人のかかわり、発明と技術、知的所有権、失敗から学ぶ事例などを考察する。この科目は企業でシステムの設計開発を担当していた教員が、その経験を活かし、システム開発の設計と実装と評価について、講義形式で授業を行うものである。
授業の進め方・方法	・技術論のガイダンス、各テーマの説明 ・技術とは何か、どのように歴史的に形成されたか ・発明と技術・知識の資産化について ・科学技術の安全性について考える ・座談会とアンケート の講義と演習を実施する。【オムニバス】
注意点	・技術とは何か、モノ作りとは何か、技術と人間社会との係わり合いの視点から考察することを勧める。 ・科学技術が人間の生活を快適にすると共に、その負の側面にも目を向けて科学技術を洞察すること勧める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス、ビデオ観賞　明治，工部大学校　（栗本育三郎　1)	ガイダンスを理解できる。工業立国のスタートを理解できる。
		2週	ものづくりの形成とその歴史 1(栗本育三郎　2)	ものづくりの形成とその歴史 1が理解できる。
		3週	ものづくりの形成とその歴史 2 (栗本育三郎　3)	ものづくりの形成とその歴史 2が理解できる。幕末から明治にかけて言志録の果たした役割を理解できる。
		4週	ものづくりの形成とその歴史 3(栗本育三郎　4)	ものづくりの形成とその歴史 3を理解し、工部大学校の設立経緯と発展が説明できる。
		5週	ものづくりの形成とその歴史 4 (栗本育三郎　5)	ものづくりの形成とその歴史 4を理解し、全体の要旨をまとめることができる。
		6週	技術の発明と知的所有権1（鈴木聡　1）	技術の発明と知的所有権1が理解できる。
		7週	技術の発明と知的所有権2（鈴木聡　2）	技術の発明と知的所有権２が理解できる。
		8週	技術の発明と知的所有権3（鈴木聡　3）	技術の発明と知的所有権３が理解できる。
	2ndQ	9週	技術の発明と知的所有権4（鈴木聡　4）	技術の発明と知的所有権４が理解できる。
		10週	技術の発明と知的所有権5（鈴木聡　5）	技術の発明と知的所有権５が理解できる。
		11週	現在の社会問題を考察する1（上村　繁樹　1）	現在の社会問題を考察するできる。
		12週	現在の社会問題を考察する2（上村　繁樹　2）	現在の社会問題を考察するできる。
		13週	現在の社会問題を考察する3（上村　繁樹　3）	現在の社会問題を考察するできる。
		14週	現在の社会問題を考察する4（上村　繁樹　4）	現在の社会問題を考察するできる。
		15週	現在の社会問題を考察する5（上村　繁樹　5）	現在の社会問題を考察するでき、レポートにまとめることができる。
		16週	アンケート（栗本育三郎　6）	全体の内容を振返り、自分の意見をまとめることができる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	10	0	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	0	10
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	70	0	0	0	10	0	80

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別研究Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0033	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験・実習（クラス形式）	単位の種別と単位数	学修単位: 8
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材	各研究テーマに関する参考書や学術論文		
担当教員	青木 優介,石井 建樹,上村 繁樹,大久保 努,鬼塚 信弘,島﨑 彦人,湯谷 賢太郎,原田 健二,虻川 和紀		

到達目標

・ 研究成果について、発表・討論する能力を身につける。
・ 与えられたテーマについての専門知識を身につける。
・ これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	研究成果について、発表・討論する応用能力を身につける。	研究成果について、発表・討論する能力を身につける。	研究成果について、発表・討論する能力を身につけられない。
評価項目2	与えられたテーマについての専門知識の応用を身につける。	与えられたテーマについての専門知識を身につける。	与えられたテーマについての専門知識を身につけられない。
評価項目3	これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する応用能力を身につける。	これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につける。	これまで学んだ専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけられない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	特別研究発表会：年度末に実施する。 特別研究論文：年度末に提出する。 予定される研究テーマを以下に示す。 主　査：上村繁樹 副　査：大久保努 テーマ：DHSリアクターにおける重金属蓄積機構の解明 主　査：鬼塚信弘 副　査：石井建樹 テーマ：砂鉄混合土の液状化強度特性 主　査：鬼塚信弘 副　査：青木優介 テーマ：フライアッシュ混合土の強度特性 主　査：島﨑彦人 副　査：湯谷賢太郎 テーマ：人工衛星リモートセンシングによる広域環境監視 主　査：島﨑彦人 副　査：湯谷賢太郎 テーマ：小型無人航空機システムを用いた生息環境調査 主　査：島﨑彦人 副　査：湯谷賢太郎 テーマ：エージェントベースモデルによる環境動態シミュレーション 主　査：青木優介 副　査：鬼塚信弘 テーマ：高温の溶融金属の落下を受けたコンクリートの損傷状況 主　査：青木優介 副　査：鬼塚信弘 テーマ：鉄粉散布法による鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃度の設定に関する検討 主　査：青木優介 副　査：石井建樹 テーマ：新設コンクリート中の鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃度の早期判定手法 主　査：青木優介 副　査：石井建樹 テーマ：硝酸銀溶液噴霧法の実施時の各種条件が結果に与える影響 主　査：石井建樹 副　査：青木優介 テーマ：複合材料における強度発現メカニズムの解明 主　査：石井建樹 副　査：青木優介 テーマ：複合材料における微視的異方性の影響 主　査：湯谷賢太郎 副　査：島﨑彦人 テーマ：トウキョウサンショウウオの基礎的生態と保全に関する研究 主　査：大久保努 副　査：上村繁樹 テーマ：灌漑利用時におけるノロウイルスを対象とした定量的微生物リスク評価
授業の進め方・方法	研究は主査教員、副査教員の指導のもと、年間を通して自ら自主的に進める。研究の成果を特別研究発表会にて発表し、デザイン能力やコミュニケーション能力を高めるとともに、特別研究論文を作成して論理的記述力を高める。 本科目は学修単位科目であり，自学自習の成果の確認をともなう。

注意点	研究は自ら思考して自主的に進めるものであり、講義や実験とは全く異質のものであることを認識することが大切である。研究成果を学会等で発表することは、研究の客観的評価が得られるため、積極的な外部への発表を心がける。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	特別研究Ｉの課題抽出と研究計画	特別研究Ｉの成果から今後の課題とその研究計画を検討することができる。
		2週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		3週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		4週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		5週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		6週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		7週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		8週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
	2ndQ	9週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		10週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		11週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		12週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		13週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		14週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		15週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		16週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
後期	3rdQ	1週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		2週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		3週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		4週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		5週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		6週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		7週	研究（進捗報告と担当教員との議論を含む）	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		8週	特別研究論文の作成	専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な論文を作成することができる。
	4thQ	9週	特別研究論文の作成	専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な論文を作成することができる。
		10週	抄録作成	専門知識を身につけ、その知識を活用しながら論理的な抄録を作成することができる。
		11週	発表資料作成	研究成果について、発表・討論するための発表資料を作成することができる。
		12週	発表練習	研究成果について、発表・討論するための練習を行うことができる。
		13週	特別研究発表会	研究成果について、発表・討論することができる。
		14週	特別研究論文の推敲	自ら思考して自主的に研究を進めることができる。
		15週	特別研究論文の完成	特別研究論文を完成させ提出することができる。
		16週	研究の統括	年間を通して、専門科目の知識を活用し、自発的に問題を解決する能力を身につけたかどうかを確認することができる。

評価割合

	発表会	論文	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	40	60	100
分野横断的能力	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別演習Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0034	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習（オムニバス形式）	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	土木技術体系化研究会(編)『土木技術検定試験-問題で学ぶ体系的知識』ぎょうせい、2011年		
担当教員	青木 優介,湯谷 賢太郎		

到達目標

・環境建設工学分野についての幅広い基礎知識と専門知識を有し、土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 （共通問題＆専門問題）に概ね正答することができる。
・学習した内容を他者に分かりやすくプレゼンテーションできる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
環境建設工学分野についての幅広い基礎知識と専門知識	土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 （共通問題＆専門問題）に正答することができる。	土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 （共通問題＆専門問題）に概ね正答することができる。	土木学会の土木技術検定試験レベルの問題 （共通問題＆専門問題）を正答できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	環境建設工学は、技術者倫理や数学、物理、情報、確率・統計、工業英語が基礎となって、土木材料、施工、建設マネジメント、構造工学、地震工学、維持管理工学、地盤工学、水工学、土木計画学、交通工学、土木環境システムの分野がある。これらの幅広い基礎＆専門知識を修得することは不可欠であり、自ら理解することはもちろんのこと、お互いが教え合うことでより理解が深まる。また、自らの研究内容を簡潔に的確に伝えるためには、論理的記述力やプレゼンテーション力が必要となり、既往の研究の洞察力もこれらの力を応用して養われたものである。本科目は土木技術体系化研究会(編)『土木技術検定試験-問題で学ぶ体系的知識』などを参考にしながら演習を進め、論理的記述力やプレゼンテーション力の向上を図る授業を学ぶ。【オムニバス方式】
授業の進め方・方法	前期の授業は教室で環境建設工学に関する幅広い基礎＆専門知識の修得を目指し、学生が輪番で自ら講師役となって講義を受ける学生に対し教授する演習形式である。後期は教室で論理的記述力・プレゼンテーション力の向上を図るために、自ら取り組んでいる研究についての概要を作成したり、関連の研究についての概要を作成したりする演習形式である。 本科目は学修単位科目であり，自学自習が必要となる。
注意点	・ 前期の演習には電卓が必須であり、必ず持参する。 ・ 本講義は、演習を通して環境建設工学に関する幅広い基礎＆専門知識の修得と論理的記述力・プレゼンテーション力の向上を目指すものである。特に知識の修得レベルの確認とし て、土木学会の土木技術検定試験の受験を強く推奨する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス（青木優介1）	前期のガイダンス（概要・達成目標・評価方法等）について理解できる。
		2週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介2）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		3週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介3）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		4週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介4）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		5週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介5）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		6週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介6）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		7週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介7）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		8週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題① （青木優介8）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
	2ndQ	9週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介9）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		10週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介10）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		11週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介11）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。

		12週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介12）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		13週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介13）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		14週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介14）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		15週	土木学会土木技術検定試験レベルの演習問題②（青木優介15）	土木学会土木技術検定試験レベルの問題（共通問題＆専門問題）の演習に取り組み、自己採点を行い、不正解問題については受講生間で相互に教えあうことができる。
		16週	前期の総復習（青木優介16）	前期の授業内容を復習し、その内容を理解できる。
後期	3rdQ	1週	ガイダンス（湯谷賢太郎1）	後期のガイダンス（概要・達成目標・評価方法等）
		2週	指導実習（湯谷賢太郎2）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		3週	指導実習（湯谷賢太郎3）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		4週	指導実習（湯谷賢太郎4）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		5週	指導実習（湯谷賢太郎5）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		6週	指導実習（湯谷賢太郎6）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		7週	指導実習（湯谷賢太郎7）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		8週	指導実習（湯谷賢太郎8）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
	4thQ	9週	指導実習（湯谷賢太郎9）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		10週	指導実習（湯谷賢太郎10）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		11週	指導実習（湯谷賢太郎11）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		12週	指導実習（湯谷賢太郎12）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		13週	指導実習（湯谷賢太郎13）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		14週	指導実習（湯谷賢太郎14）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		15週	指導実習（湯谷賢太郎15）	自ら学習した内容を他者にわかりやくす伝えることができる。
		16週	後期の総復習（湯谷賢太郎16）	後期の授業内容を復習し、その内容を理解できる。

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	0	100	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0

木更津工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環境工学特論

科目基礎情報

科目番号	0035	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	必要に応じて資料を配布		
担当教員	大久保 努		

到達目標

主に我が国の治水や利水にまつわる歴史や文化，地理的特徴について理解する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
治水・利水技術	治水・利水技術を理解できる	治水・利水技術を概ね理解できる	治水・利水技術を理解できない
伝統的河川工法	伝統的河川工法を理解できる	伝統的河川工法を概ね理解できる	伝統的河川工法を理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	かつて四大文明は河川のもとで誕生しました。我が国の戦国時代では「川を治めるものは国を治める」といわれていました。河川と我々の暮らしは密接な関係があり，また，それぞれの時代で人と河川との関わり方も変化してきました。過去の歴史を学び，今後の我々と河川との関わりはどうあるべきかを考えます。
授業の進め方・方法	・レポート課題（50%）と発表（50%）で評価する ・授業時間90分に対して参考図書等を活用して180分以上の自学自習を行うこと。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	講義の説明と図書の紹介
		2週	私たちの暮らしと土木	河川における防災・減災技術を理解
		3週	日本の近代土木を築いた人びと	土木史を理解
		4週	民衆のために生きた土木技術者たち	土木史を理解
		5週	高度成長期を支えた土木技術者たち①	土木史を理解
		6週	高度成長期を支えた土木技術者たち②	土木史を理解
		7週	レポート作成	レポート課題を説明
		8週	レポート作成	レポートを作成し，お互いにレビューする
	4thQ	9週	千葉県の治水・利水技術と歴史①	千葉県の治水・利水史を理解
		10週	千葉県の治水・利水技術と歴史②	千葉県の治水・利水史を理解
		11週	多自然川づくりと伝統的河川工法①	具体的な計画と設計法について理解
		12週	多自然川づくりと伝統的河川工法②	具体的な計画と設計法について理解
		13週	河川伝統工法	河川伝統工法を理解
		14週	レポート作成	レポート課題を説明
		15週	レポート作成	レポートを作成し，お互いにレビューする
		16週	発表会	受講学生間で討議

評価割合

	レポート	発表	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	25	0	25
専門的能力	25	0	25
分野横断的能力	0	50	50